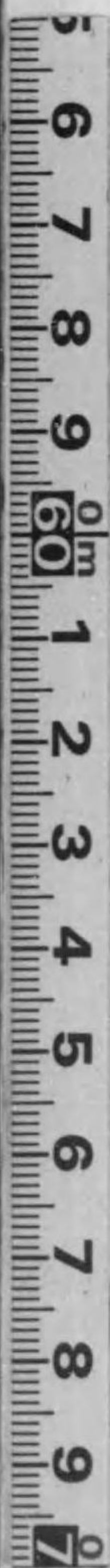


344

400

富山縣支會  
吉備府八縣  
聯合產業組合大會經過報告



始



344  
400

富山縣支會  
志權府八縣  
聯合產業組合大會經過報告

344-400



緒言

富山縣主催聯合共進會を機とし、大正二年九月十五、十六の兩日富山縣會議事堂に於て本會主催となり、一府八縣聯合産業組合大會を開く、秋恰も農繁の候なりしに盛會を呈したるは、欣幸とする所なり、茲に紀念の爲經過概要及講演筆記等を摘録して印刷に附し、沿く關係者に頒たんとす、讀者之を諒せよ

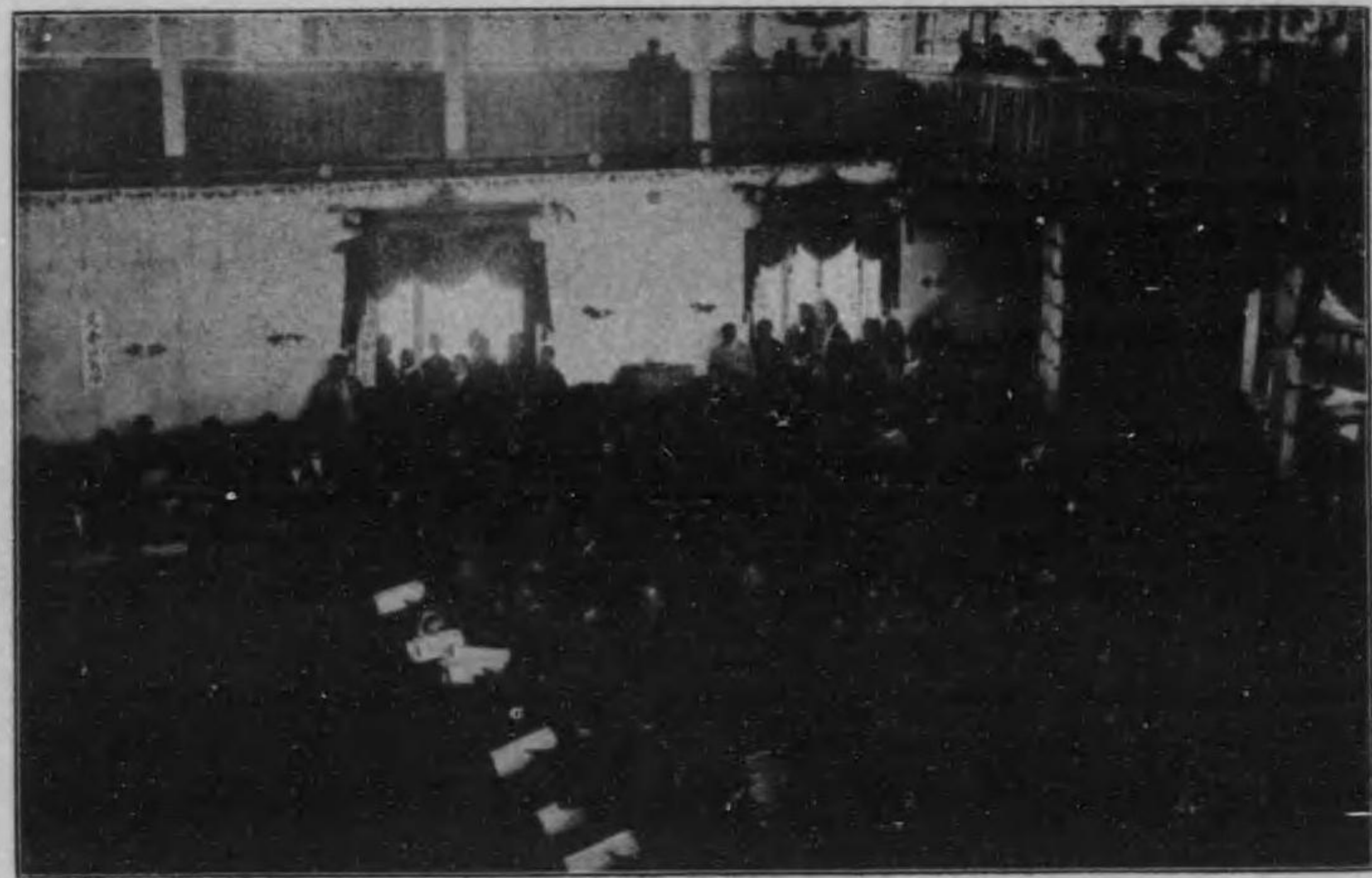
大正三年三月

産業組合中央會富山支會

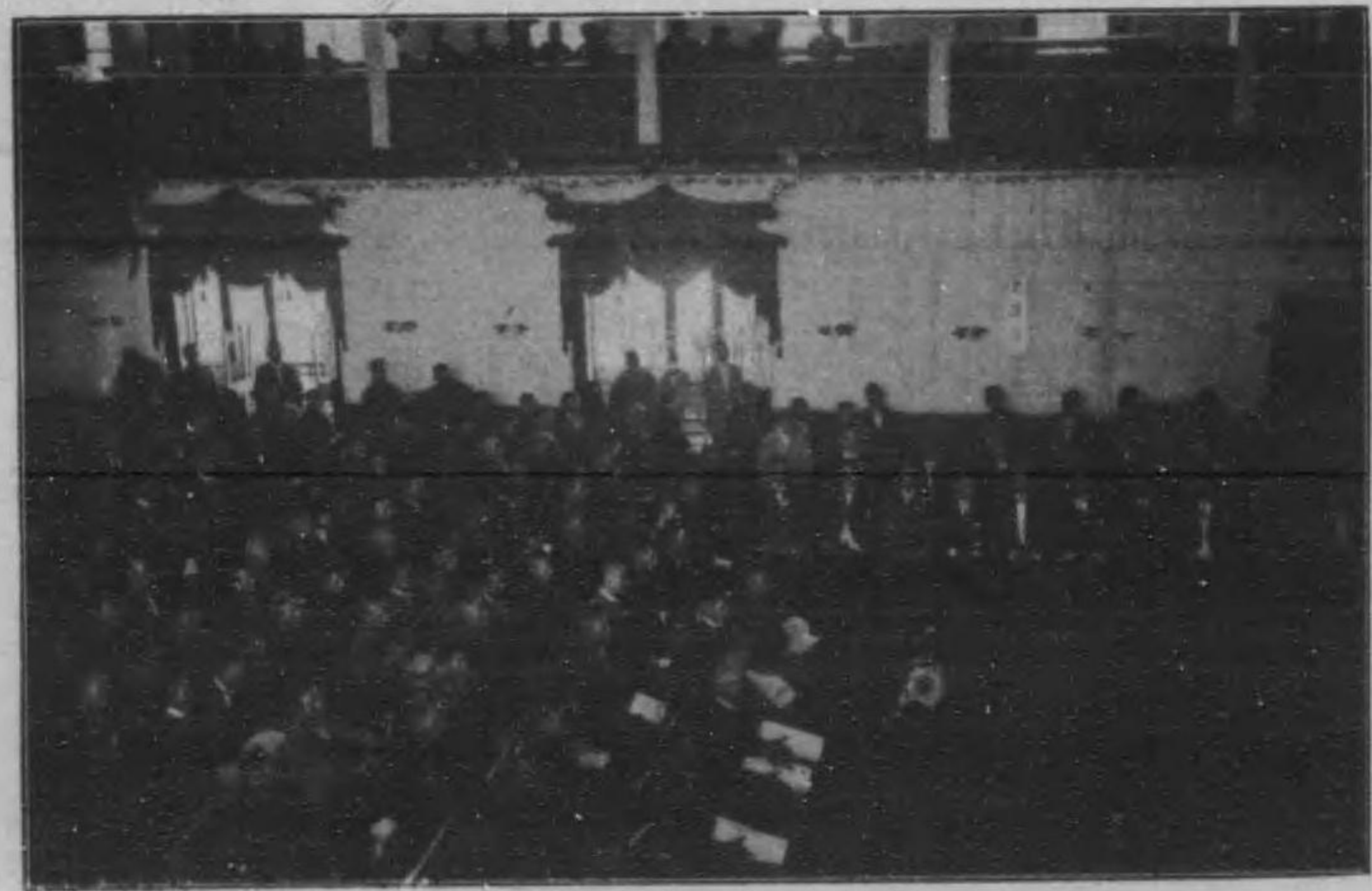
大正  
3. 4. 25  
内交







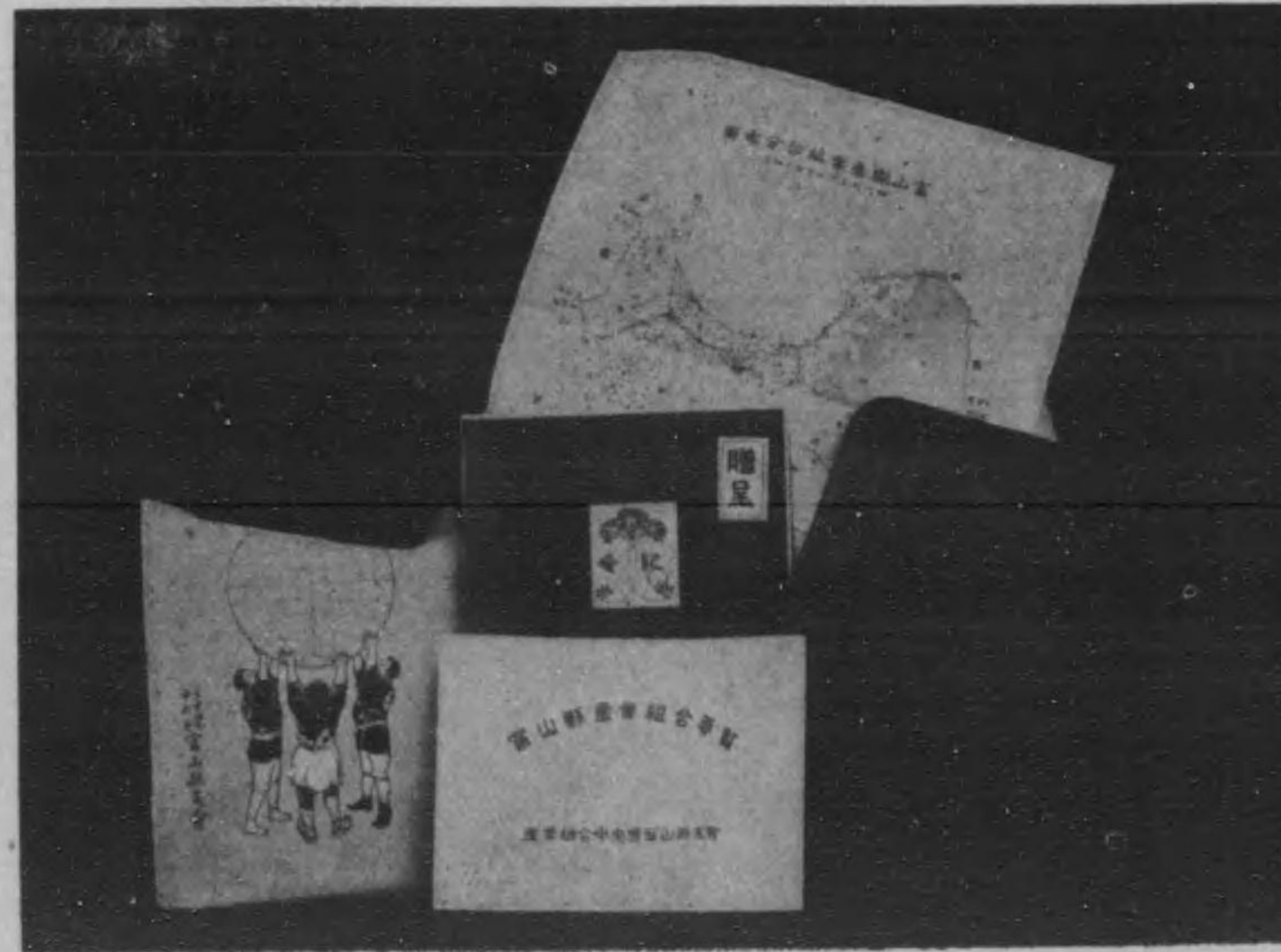
(一其) 式 彰 表



(二其) 式 彰 表



大 會 々 場 (富山縣議會事堂)



來 會 者 之 贈 呈 記 念 品



會長 濱田恒之助 閣下



事務長 木間利雄 君



副會長 飯尾藤次 君



富山縣勸業課長 船藏達君





內閣及事務省託國府種德君



農商務參事三松武夫君



中央會事川則吉閣下



中央會講師垣恒矩君



中央會主事佐藤寬大君



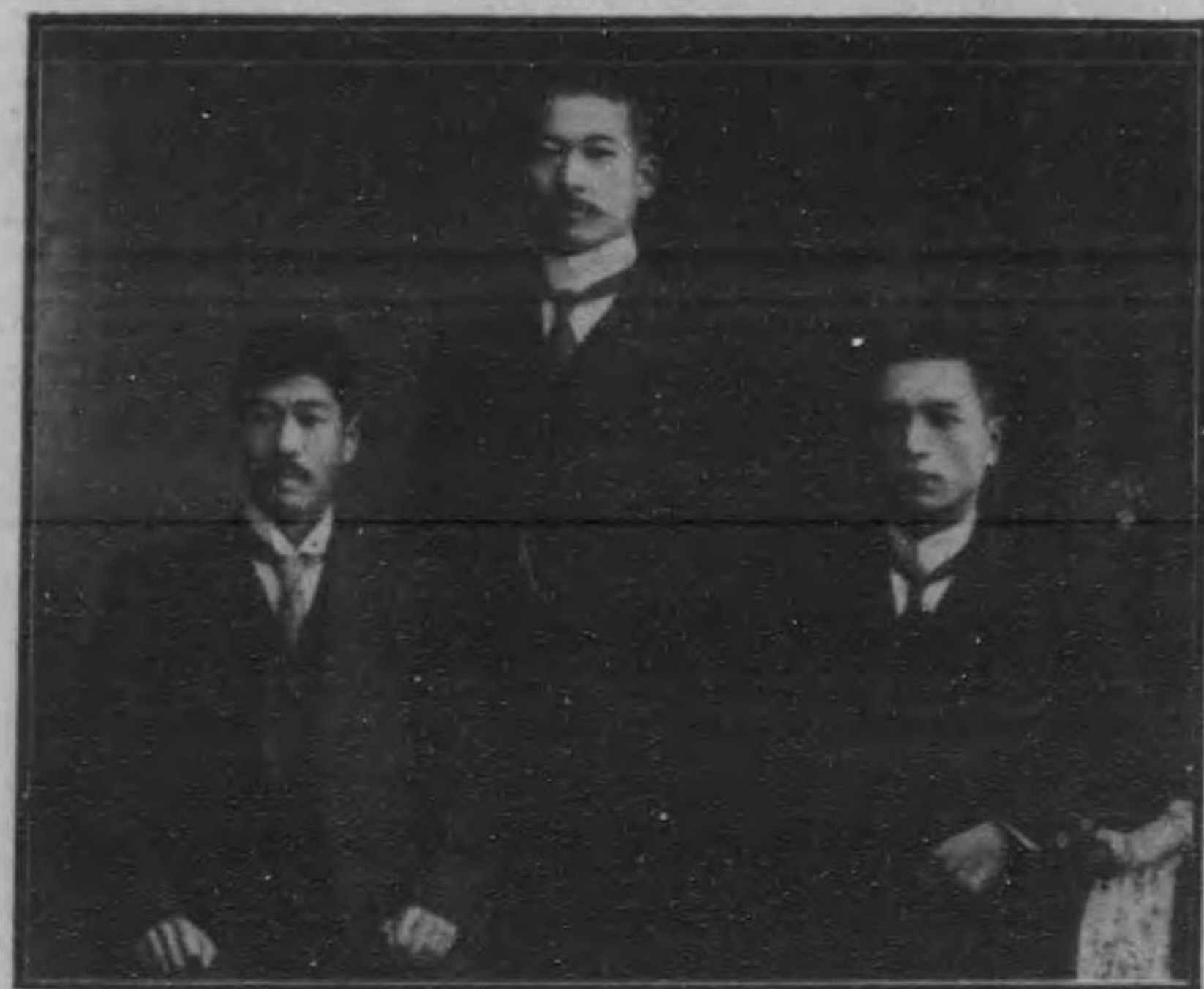
委員 支 會  
理事 根 宗 四 郎 君



委員 支 會  
代表 塚 藤 吉 君



委員 支 會  
理事 豐 那 君



事務員 高 邑 虎 次 君  
事務員 羽 根 又 四 郎 君      事務員 高 島 長 次 君

富山縣支會  
主催一府八縣 **聯合產業組合大會經過報告**

一、準 備

一府八縣聯合共進會を我が富山市に開催せらるゝに際し本縣產業組合の改善發達を期する目的を以て産業組合中央會富山縣支會は大正二年二月二十八日通常總會を機とし聯合府縣產業組合大會を富山市に開催し斯道諸大家の講演を仰ぎ廣く組合經營者の實歴を交換して採長捨短の資に供すると共に經營上至難事項及疑義の諸問題を解決せんとし之を總會に諮りたるに滿場一致を以て開催することに決し而して其諸計劃は總て理事に一任することに決議したり爾來左の順序方法に依り事務の進行を計れり

理事の會合 三月二十七日支會理事會合し豫算編成と共に諸種の計劃を立て左記大會規則及處務規程を協定せり

一府八縣聯合產業組合大會規則

- 第一條 本會は東京、新潟、栃木、群馬、滋賀、岐阜、福井、石川、富山の一府八縣の聯合を以て組織し富山縣富山市に於て開催す
- 第二條 本會は産業組合に關する諸般の問題を講究し斯業の進歩發展を圖るを以て目的とす
- 第三條 聯合各府縣は出席員中代表者三名以内を定め其の氏名を報告するものとす
- 第四條 本會開催に關する事務及經費は總て産業組合中央會富山縣支會に於て支辨するものとす
- 第五條 出席代表者の要する費用は其の府縣に於て適宜支辨するものとす

一府八縣聯合產業組合處務規程

第一條 一府八縣聯合產業組合大會に關する事務は本規程に依り處理するものとす

第二條 大會は大正二年九月十五日より二日間富山縣會議事堂に於て開催するものとす

第三條 大會に左の職員を置く

會長	一名	副會長	一名
委員	若干名	事務長	一名
事務員	若干名		

第四條 會長は產業組合中央會富山縣支會長を以て之に充つるものとす

副會長は產業組合中央會富山縣支會副會長を以て之に充つるものとす

委員は會長之を囑託するものとす

事務長は支會理事中より會長之を囑託す

事務員は會長之を囑託又は任命す

第五條 會長は大會に關する一切の事務を總理す

副會長は會長を補佐し會長事故あるときは之を代理す

委員は會長の諮問に應じ且つ大會に關し意見を述ぶることを得

事務長は會長の指揮を承け會務を處理す

事務員は會長副會長及事務長の指揮を承け事務に従事す

第六條 大會の事務を處理する爲め左の掛を置く

庶務掛、接待掛、會計係

第七條 各事務の分掌左の如し

庶務掛

一、文書の發送收受及整理に關する事項

一、來賓其他招待に關する事項

一、印刷物調製に關する事項

一、提出問題及議事に關する事項

一、會場の設備に關する事項

一、大會の順序并に講演に關する事項

一、他掛の主宰に屬せざる事項

接待掛

一、受付其他取締に關する事項

一、來會者の宿舍に關する事項

一、來賓待遇に關する事項

一、視察案内に關する事項

一、招宴に關する事項

會計掛

一、經費の出納及決算に關する事項

一、物品の調度受拂及保管に關する事項

聯合府縣の賛同

四月八日大會開催の趣意書に前掲大會規則及處務規程を添へ東京府知事及新潟、

朽木、群馬、滋賀、岐阜、福井、石川の各支會長の賛同を求めたりしに各府縣舉げて賛同する旨回答を得たり

開催期日の決定

聯合共進會富山縣協賛會は豫め各種大會の日割を定め更に各種大會主催者協定の上下大會は九月十五、十六の兩日開催することに決定したるを以て六月二十四日其旨中央會頭に報告し且つ關係府縣に通知したり

講師派遣申請

六月二十四日農商務大臣、内務大臣、中央會頭に御臨席を請ひ夫々講師派遣方申請せり

共同設備

七月十四日各種大會主催者協議會を開き左記事項便宜共同經營に附し其經費は協賛會より補助金交付の率に随ひ負擔をなすこととし其準備に關しては協賛會大會係に一任することに協定したり

- 一、會場設備に關する件
- 一、停車場前案内場設備に關する件
- 一、裝飾并に余興に關する件
- 一、速記者及人夫雇入に關する件

委員事務員の囑託

七月二十五日會長より左記五十名に夫々委員事務長并に事務員を囑託せり

委員

産業組合中央會富山縣支會理事  
同 産業組合中央會富山縣代表者

根尾宗四郎  
堀島藤吉

事務長

- 有限責任富山賣藥信用組合理事
- 有限責任神通川漁業信用販賣組合理事
- 有限責任堀川信用購買組合理事
- 有限責任水橋賣藥信用組合理事
- 無限責任上條村信用購買販賣組合理事
- 無限責任下中島信用組合理事
- 有限責任柗山信用購買販賣組合理事
- 無限責任下原信用組合理事
- 有限責任宮川村信用購買販賣組合理事
- 有限責任音川信用購買組合理事
- 有限責任横田信用購買販賣組合理事
- 有限責任七美信用購買組合理事
- 有限責任久々江信用購買販賣組合理事
- 無限責任湖光信用組合理事
- 無限責任苗加信田購買販賣組合理事
- 無限責任山田村信用購買販賣生産組合理事
- 無限責任庄下信用組合理事
- 無限責任小杉信用購買販賣組合理事
- 無限責任松澤南部信用購買販賣組合理事

阿部初太郎  
日南田宇八郎  
野上喜調  
押田信行  
杉木義一  
高島次右衛門  
長島榮次郎  
森榮次郎  
池内利里  
五十嵐爲次郎  
堀二平  
寺島松右衛門  
江尻豊太郎  
陸田九左衛門  
岡田作平  
西村三助  
館兵右衛門  
大江元市郎  
高島開作  
本間利雄

事務員

- |       |       |       |       |       |       |       |       |       |        |      |      |         |      |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|------|------|---------|------|
| 羽根又四郎 | 高島長次郎 | 金森彌次郎 | 清水清一郎 | 三輪吉太郎 | 三邊泰盛  | 小野三郎  | 永野壽太郎 | 大石齊治  | 森田四郎兵衛 | 本田友松 | 山中半藏 | 佐々井和左衛門 | 糺屋邦直 |
| 本向和雄  | 高邑虎次郎 | 新明字一郎 | 中川直次郎 | 藤木直治  | 宮崎吉之助 | 本波慶太郎 | 藤森信一  | 宇城安太郎 | 藤澤滋三   | 吉田彌平 | 谷口直信 | 中川滋治    | 金谷操三 |

來賓招待

主務大臣、農務局長、商工局長、農政課長、係技師、地方局長、中央會頭、同副會頭各講師、聯合府縣知事、同内務部長、同勸業課長、同係主任官、勸業銀行正副總裁、全國各支會長、縣内貴衆兩院議員、縣會議員、郡市長、専門學校長、新聞記者等二百五名に臨席を請ふべく八月十日附を以て左の案内状を發せり

肅啓益御清穆之段奉賀候陳者今回聯合共進會開催を機とし來九月十五、十六の二日間本縣々會議事堂

に於て一府八縣聯合産業組大會開催候に付萬障御繰合せ御臨場の得榮度御招待申上候 敬具

追テ準備ノ都合モ有之候間午御迷惑御來會ノ有無來八月三十日迄ニ御回報煩度申添候

大正二年八月十日

一府八縣聯合産業組大會長 濱田恒之助

産業組合中央會 富山縣支會長 殿

委員會開催

八月十六日大會委員會を開き事務經過の状況を報告し併て左記事項に就き協議したり

一、委員役割に關する件

一、縣内來會員制限に關する件

割引券の發行 來會者の便宜を計らんか爲め鐵道院及縣内私設鐵道會社に乘車割引方交渉せしに夫々許可を得たるを以て割引券を印刷し八月三十日關係府縣及各郡市役所に送付したり

旅館の斡旋 聯合府縣に對し出席者見込數照會せしに夫々通報を得たるを以て左記旅館を指定し來會者に周知せしむべく九月八日聯合府縣に通知せり

- |     |       |     |
|-----|-------|-----|
| 東京府 | 總曲輪   | 富山館 |
| 新潟縣 | 仁右衛門町 | 山村屋 |
| 群馬縣 | 櫻木町   | 常盤館 |
| 栃木縣 | 總曲輪   | 公園館 |
| 岐阜縣 | 同     | 泉館  |

滋賀縣 同 同 神田館  
 福井縣 旅籠町 高松屋  
 石川縣 總曲輪 富山館

事務打合せ 九月十四日委員及事務員集會し事務分掌等に就き打合をなしたり

一、設備

案内場の設置 富山驛前には各種大會共同協賛會の斡旋の下に一間半に二間半の案内場を建設し電話機を備ひ絶えず三四名の事務員出張して來賓及來會者の發着を案内し兼て款送迎に努めたり  
 會場の設備 會場なる縣會議事堂の東西兩入口には大綠門を建設し額面を掲げ以て外來者の視線を導き正面入口には來賓及縣外來會者の受付を備ひ西門入口に縣内一般來會者の受付所を設けて出入の雜踏を防ぎ場内各室は帝國裝飾株式會社の手に依り千花萬葉の色彩を以て飾られ正面演壇には同しく造花の一大花輪を据へ更に右側の大花瓶には紅綠滴る生花を以てし一度場内に入らば再び去るに忍びざるの光彩を放てり

特種産物の陳列 縣下販賣組合の取扱に係る漆器、織物、稻種、花筵、箕、菅笠等の特種物産及組合成績圖等を場内控室の四圍に陳列し縣下物産と共に組合同業の紹介に努めたり其陳列品目及組合は左の如し

陳列品目	事務所々在地	組合名
各種漆器	高岡市	有、高岡漆器購買販賣組合
壘表及箕類	水見郡	無、熊無信用購買販賣組合
	熊無村	

同	同	同	無、論田信用購買販賣組合
稻種標本及調製模型	東礪波郡	青島村	有、青島信用生産販賣購買組合
稻種標本及組合成績	同 郡	種田村	有、五ヶ稻種信用販賣購買組合
綿織物	同 郡	南野尻村	有、生産販賣購買組合大福社
菅笠及莫産	同	西五位村	有、五位庄菅笠蘭蔴購買販賣組合
組合成績圖解	東礪波郡	東五位村	無、中保販賣購買組合
組合沿革史	水見郡	窪村	無、苗加信用購買販賣組合
			無、湖光信用組合

晚餐會開催 大會第一日午後六時より縣會議事堂に於て大會出席の來賓及府縣代表者等を招き晚餐會を催したり、列席者二百二十名酒間演奏樂の興を添へ盛會を極めたり  
 拜啓時下殘暑之候益御清榮奉賀候陳者今一回一府八縣聯合産業組台大會開催に當り御多用中にも不拘遠路御來會被成下忝奉謝候就ては本日午後六時より縣會議事堂内に於て晚餐會開催致度候間御臨席の榮を得度此段御招待申上候敬具  
 追テ御臨席ノ際ハ本招待狀御持參ノ上受付係ニ御示シ被下度申添候  
 大正二年九月十五日

一府八縣聯合産業組台大會長 濱田恒之助  
 産業組合 富山縣支會長 殿  
 中央會 富山縣支會長 殿  
 講師慰勞會 右晚餐會閉會後更に本縣支會役職員は講師各位を富山ホテルに招き多事多忙の折り御來

臨の勢に向つて謝意を表したり  
 紀念品の贈呈 本大會を紀念すべく兼て縣下物産を紹介するの目的を以て菓子器、及彫刻盆を特に有  
 限責任高岡漆器購買販賣組合に命じて製作せしめ來賓及主なる來會者に贈呈したり  
 印刷物の配布 本縣支會にては富山縣産業組合要覽、産業組合分布圖、共進會案内圖、等を印刷し、  
 東京爲替貯金局、中央會、群馬支會及縣内四五の組合より寄贈に係る各種印刷物と共に參會者一同に配  
 付したり

協賛會の寄贈品 聯合共進會富山縣協賛會は縣外よりの來會者に左記物品を贈呈せられたるを謝す  
 一、案内記一部 一、繪端書一組 一、共進會入場券一葉 一、優待券一葉  
 新聞社の聲援 北陸タイムス、富山日報、北陸政報、高岡新報等の各新聞社にては大會前より盛に聲  
 援を與へられ特に開期中は紀念記事を掲げ之を來會者に配布せらるゝ等多大の便宜を與へられたるは感  
 謝する所なり

### 一、參會者

來賓 第一日 第二日  
 一般來會者 百十八名 百九名  
 計 七百四名 八百四十八名  
 八百二十二名 九百五十七名  
 尙右參會者を府縣別に示せば左の如し  
 東京 三 新潟 六

群馬	馬	二二	栃木	一七
岐阜	阜	二一	滋賀	四五
福井	井	三四	石川	三七
富山	山	六五八		
(聯合府縣外の傍聴者)				
長野	野	二七	北海道	三
和歌山	山	一	京都	一
鹿兒島	島	一		

中央名士の派遣 中央會、農商務省及内務省よりは左記の通り派遣せられたり

中央會 頭代理	參事	押川 則吉
農務局長代理	書記官	三松 武夫
中央會 主事		佐藤 寛次
中央會 講師		西垣 恒矩
同 主事 補		若林 富太郎
内務省 囑託		國府 種徳
代表者	大會規則第三條に依り聯合各府縣より推選せられたる代表者の氏名左の如し	
東京府	有限責任東京府信用購買組合聯合會	理事 德田 留藏
新潟縣	産業組合中央會新潟支會	支會長 高橋 九郎



同 同

群馬縣

有限責任大原信用購買生產販賣組合

有限責任山王道信用購買組合

有限責任黒保根信用購買生產組合

栃木縣

有限責任矢板信用組合

有限責任本郷信用組合

岐阜縣

產業組合中央會岐阜支會

滋賀縣

有限責任厚生社信用販賣購買組合

福井縣

產業組合中央會福井支會

同

同

石川縣

無限責任勅使信用購買販賣組合

無限責任宮保至誠信用組合

理事 理事

林 靜 治  
齊 藤 善 太 郎

理事

町 田 啓 次 郎

理事

大 和 浩 三 郎

理事

星 野 耕 作

理事

矢 野 元 吉

理事

濱 野 元 吉

副會長

長 谷 川 藤 藏

理事

北 川 喜 平

副會長

山 田 欽

理事

田 中 甚 兵 衛

理事

荒 井 豐 治

理事

畑 場 梅 吉

理事

北 村 好 松

理事

理事

理事

理事

有限責任七浦販賣生產組合

富山縣

無限責任上條村信用購買販賣組合

無限責任松澤南部信用購買販賣組合

理事

大 木 菊 太 郎

理事

羽 根 又 四 郎

理事

杉 木 信 行

理事

高 島 開 作

第一日 九月十五日 (月曜日)

午前九時開會

- 第一 第一 一、會員着席
- 第二 第二 一、來賓着席
- 第三 第三 二、主務大臣、中央會頭、全副會頭着席(支會長先導)
- 第四 第四 一、皮申詔書捧讀
- 第五 第五 一、會長閉會ノ辭
- 第六 第六 二、主務大臣訓辭
- 第七 第七 三、中央會頭訓辭
- 第八 第八 四、協議
- 第九 第九 正午休憩
- 第十 第十 午後一時開會
- 第十一 第十一 一、一同着席
- 第十二 第十二 二、組合實驗談
- 第十三 第十三 三、諸大家ノ講演
- 第十四 第十四 四、組合實驗談
- 第十五 第十五 第二 二、諸大家ノ講演
- 第十六 第十六 第二 二、諸大家ノ講演
- 第十七 第十七 第二 二、諸大家ノ講演
- 第十八 第十八 第二 二、諸大家ノ講演
- 第十九 第十九 第二 二、諸大家ノ講演
- 第二十 第二十 第二 二、諸大家ノ講演

第二日 九月十六日 (火曜日)

午前九時開會

- 第一 第一 一、一同着席
- 第二 第二 二、協議
- 第三 第三 三、諸大家ノ講演
- 第四 第四 一、支會長式辭
- 第五 第五 二、表彰狀授與
- 第六 第六 三、中央會頭農務局長知事訓辭
- 第七 第七 四、來賓祝辭
- 第八 第八 五、表彰組合總代答辭
- 第九 第九 六、閉式ノ辭
- 第十 第十 一、會長閉會ノ辭
- 第十一 第十一 第二 二、主務大臣、中央會頭全副會頭退席
- 第十二 第十二 二、來賓退席
- 第十三 第十三 第五 五、會員退席
- 第十四 第十四 右終テ記念品及印刷物配布
- 第十五 第十五 午後一時ヨリ共進會案内

大 會 順 序

一、開 會

定刻に至りて振鈴は開會を報し、一同既定の席に着き、會長壇上に進み恭しく皮申詔書を捧讀し續て左の開會の辭を朗讀す

開 會 の 辭

本日を下し一府八縣聯合産業組合大會を開催するに方り會頭閣下始め多數貴賓の臨場を得たるは本會長の最も光榮とする所なり

抑も産業組合は小産業者の共同自助に依り組合員の經濟及德義の發展向上を促し國家の進連に資すると共に社會政策上裨益する所多大なるを以て歐州諸國何れも之れか利用と助長とに力のざるはなし我國の如き産業組織の小規模なる國にありて殊に其切要なるを見る

願れば産業組合法發布以來星霜を経ること十有四年今や全國を通して組合の數一萬以上に及び其成績見るべきもの亦尠からずと雖彼の半世紀以上の歴史を経たる泰西諸國の夫れに比するに未だ一般に幼稚の域を脱する能はず前途尙遠遠なりと信す今回本縣に於て聯合共進會開催を機とし關係府縣の贊同を得て一府八縣聯合産業組合大會を開き各地に於ける組合經營及び施設の狀況を知ると共に諸般重要の問題を攻究討議し斯道の大家に依つて之れか解決を仰ぎ以て組合經營の資に供せんとす今や社會の進歩は駁々として底止する處なく列國の競争日に熾烈に貧富の懸隔彌較著ならんとするの秋に際し我が國情益小産業者の保護を主眼とする産業組合の活動に俟つべきもの大なり冀くは來會者諸氏熱心以て斯道發展の爲めに貢獻せられんことを一言以て開會の辭となす

大正二年九月十五日

一府八縣聯合產業組合大會長 濱田恒之助

夫れより三松農商務書記官は主務大臣代理として簡單に一場の訓辭をなし、押川中央會參事は中央會頭訓辭を代讀せらる

主務大臣訓示

私は、此所に農商務省を代表致しまして、此一府八縣聯合產業組合大會に出席致しましたので一言を述べたいと思ひます、産業組合は唯今も一府八縣聯合產業組合大會長たる、濱田本縣支會長の御訓示にございました通り、既に星霜を経ること十四年で、組合も今は万を以て數ふる状態でございます、此所數年の間に於ける長足の進歩を考へると、産業組合の發達は著しい發達と言つて宜いと思ひます、成程先進國の一、二の組合に比較すると、其進歩は遅きにあるやうであります、先づ數に於て長足の進歩を爲したと云ふ事が出来やうと思ひます、是等は此席に連つて居らるゝ方々のみならず、其以外の府縣の方々の御盡力で、是等の現象を來した事と思ふのでございます、産業組合と云ふものが、それ迄世に知られたに付きましては、當局者たる吾々の深く感激するところでございます、併ながら茲に一つ顧なければならぬ事がござい、それは數が是だけ出來たに拘らず、非常に良いところの組合の進歩が、それ程に成功して居らぬと思つてでございます、是等の点は私からして申述べなくとも、常に政府から出し或は各府縣に於て出すところの統計、若くは摸範とせらるゝ組合の状況に於て明であらうと思ひます、斯の如く割合に良いものの少ないのは、洵に遺憾でございます、思ふに、無論此大會に御出席の御方は、其趣旨を十分御承知でありませうが、中には、産業組合は唯ほんの利益を得るものゝやうに、間違つた考を起す者がある爲に、世間に於てはいろ／＼な疑を起す者があるのでございます、組合は御承知の通り精神が第一でございます、其精神の下に經濟上の働きを爲さなければならぬのでございます、其精神を知らず、組合を拵へれば

自分も利益があり、組合も儲ると云ふ詰らぬ考を持つてやる者がございましたならば大なる間違であると思ふのであります、それで私は産業組合と云ふものに對して、御獎勵になるに就ても、どうぞ突然利益があると云ふ考を以て、御指導なさることは御免蒙りたいと思ひます、さうして取締つて行くにも、それを飲込んで着々歩を進めて、必しも急激の進歩は望まないでござい、堅實なる組合の趣旨として、其事を望むのでございますから、諸君も此機會を利用して、いろ／＼有益なる御話をなさることも、講話を御聽きになる事もありませうから、組合は其精神を第一の根本に置いて、其上に經濟上に之を利用することを望みます、本日は此一府八縣聯合大會を開かるゝに當り、此盛大なる席に出まして、簡單に一言當局の考を述べて、訓辭に代へる次第でございます

中央會頭訓辭

本日、中央會頭平田子爵が御臨席になる筈でありましたが、折悪く病氣に罹つて居られますから、私が中央會の會頭に代つて出席致しました次第で、會頭の訓辭を代讀致します

今回聯合共進會を機とし本縣支會の主權に依り茲に一府八縣聯合產業組合大會を開設するに至りたるは獨り聯合府縣に於ける組合の改善に資益する所大なるのみならず又斯道發達の爲め最も機宜に適したるものと謂ふべし國家人文の發達と經濟の變遷とは益々産業組合の必要を促し其數、今や一萬數百に達し其事業亦漸く見るべきものあるに至れりと雖も之を現時の必要に照し將來の發展に考ふるときは未だ遠く完備の域に至らず況や海外貿易の趨勢未だ順に復せず生産未だ興らざるに消費先つ加り小資産者の救護愈々急切を見る秋に當て我が産業組合の國家に對する責任の倍々重大にして其の活動に俟つ愈々急なるものあるに於てたや吾人事茲に従ふ者豈奮勵努力を以て健全なる發達を期せざるへけんや  
若し夫れ教育勸語并に成申詔書の聖旨は我が産業組合の本義にして曩に下賜せられたる御沙汰と與に常に奉體服膺すへき所なり希くは諸君と共に堅忍自強以て業に従ひ國運の發展に貢獻し聖旨に副ひ奉らん

ことを

大正二年九月十五日

産業組合中央會頭法學博士子爵 平 田 東 助  
次て富山縣知事、富山縣會副議長、郡市長總代、富山商業會議所會頭の祝辭朗讀ありたり

祝 辭

富山縣主催聯合共進會開催を機とし茲に一府八縣聯合産業組合大會を開かるゝは本官の欣喜に堪へざる所なり惟ふに國運の隆興は産業の發達と民力の増進とに俟たざるべからず而して我國の如き小農商工業者を以て國家産業の原動力と爲すの國に在りては鄰保相和し協力零碎の資を集積し共同經營相互の福利を進むると共に地方産業の發展を圖り以て國富の充實を期せざる可からず蓋し政府が産業組合の制度を設け之れか普及と發達を期待する所以實に此に存す本日茲に大會を開催し重要案件に付審議協商し斯業の發展に資せんとするは洵に機宜に適したるの舉にして國家の爲め慶賀に堪へざるなり  
冀くは今回の協商に鑑み献身以て斯業の啓發に勉め一は一家の恒産を起し又た共同和衷の美風を馴致し一は地方産業の發展を圖り以て國運の隆昌を期せられんことを、一言以て祝辭とす  
大正二年九月十五日

富山縣知事 濱田恒之助

祝 辭

本日茲に一府八縣聯合産業組合大會の開催に當り列席するを得たるは本職の光榮とする所なり  
惟ふに世運の隆昌に伴ひ國力の充實を圖るは刻下の急務にして一日を緩ふすべからざるなり蓋し生産の中

堅者たる小中産業者をして共同一致の精神を發揮し産業の増進を圖り勤儉貯蓄の美風を涵養し依つて以て國家百年の大計を建つべきなり此れ我國曩に産業組合の制度を布きて其の普及發達を奨勵せらるゝ所以なるべし而して組合其の目的を達成せんとするには堅實なる思想を養成し協力持久勉めざるべからず茲に共進會を機し産業組合大會を開き斯業の重要事項に付審議協商せらる洵に機宜を得たるの舉にして國家の爲め慶賀に堪へざるなり

冀くは今回の協商を空しからしめす一面共進會出品物を親しく觀覽し世の嗜好する所を查撃し品質形状の優劣を参照し以て益斯業の發達を企圖せられんことを、一言を陳へて祝辭と爲す

大正二年二月十五日

富山縣會副議長 野島茄三郎

祝 辭

今回本縣に於て聯合共進會開催を機とし一府八縣聯合の産業組合大會を開催せらるゝに當り本官等又陪席するを得たるは深く欣幸とする處なり  
抑も産業組合の主眼とする處は小産業者の共同互助に依り其の組合員の經濟及道德の向上發展を促し依て以て國家の進運に裨補せんとするにあり  
願れば産業組合法の實施せられし以來既に十數年を経過し今や全國の組合數は万を以て數ふるに至りしは邦國のため慶賀に堪へざる處なりと雖も尙泰西先進國の夫れに比するときは一般に幼稚の域を脱せつして前途遼遠の感なき能はざるは遺憾とする處なり  
冀くは此大會を機とし一面各組合に於ける施設經營の狀況を知り一面各種須要問題の討議によりて法の運用と事業發展とに資し中産以下の産業者を保護するに遺憾なからしめんことを、一言を陳して祝辭とす

大正二年九月十五日

郡市長總代

上新川郡長正六位勳四等

松山 願武

祝 辭

茲に本日をして一府八縣聯合産業組合大會を開かるゝに方り盛式に列するを得たるは予の最も光榮とする所なり

惟ふに産業組合は其の種類數多ありと雖も成な産業の發展を圖る必要の機關たらざるは莫し而して産業組合は年々歳々進歩の實蹟を見るべきものあるも尙ほ前途の發展を期せざるべからず是れ今回一府八縣聯合共進會の開會を機として大會を開き以て機關の活動を促し産業發展に資せんとするにあらん然らば則ち國家の爲め慶賀すべきなり一言以て祝意を表す

大正二年九月十五日

富山商業會議所會頭 山田 信昌

協 議

第一日

○副會長(飯尾藤次郎君) 是より協議會を開くのでありますが、協議會を整理致しまする議長の選舉を御願致したうございます

○富山縣(日南田宇八郎君) 本協議會の議長は、唯今此席に居られる所の本縣支會の副會長を以て議長と致したいと思ひます、諸君の御同意を希ひたいのでございます

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○副會長(飯尾藤次郎君) 御異議がないと認めます、それでは甚だ不束ではありますが、私が議長席を汚して本協議會を主宰致します、何分宜しく御願致します、協議問題は七問題出て居りますが、先づ第一問題から協議に移ります

一、國定教科書に産業組合の概念を掲載せられんことを其の筋に建議するの件

富山縣支會提出

理由、産業組合の普及發達は國民の道德經濟の發達上重要たることは論を俟たざる所なるも一般に組合思想に乏しきを遺憾とす故に之れが概念及思想を少年時代より涵養することは最も緊要なりと信ず此れ本問題を提出せし所以なり

○富山縣(羽根又四郎君) 私は富山縣支會の提出者を代表致しまして、聊か簡單に提出したる所の理由を

述へたいと思ふのであります。産業組合の状況に就ては、唯今農商務大臣閣下の訓示中にありましたが如く、長足の進歩を見て居ると云ふものゝ、其内容に至つては未だ幼稚の域を脱して居らぬことは、吾々産業組合に従事して居る者の等しく認めて居るところであります。之を如何にして其内容の充實を計らんとするかと云ふことに就ては、吾々の最も苦慮して居る所であります。そこで曩きに本問題が中央會の問題として、之を決したかと思ふて居るので、之を諸君と共に忘れないのであります。其中央會の協議問題に移しました其効果に依て現に高等小學の教科書に、産業組合の一事を設けまして、産業組合の何たるかに就て、稍々吾々の満足するところの事項が掲載されてあります。けれども之を尋常小學の教科書に見まするに、甚だ簡單にして未だ吾々の満足を得る要領は掲記されてないやうに信するのであります。今日我國体の状態から眺めて見ますると、第二國民の根本となる、尋常小學に居るところの極めて幼少なる時代から、其精神を涵養しなければ、此産業組合なるものは如何に良い組織であるに致しても、今日唯數に於て長足の進歩を致しても、其内容は充實しない譯であると考へまして、本問題を提出した次第であります。願くは其意を御含み下さいまして、此提出者の趣意は先程申し上げました如く、今少し尋常小學の教科書に、此産業組合の何たることを十分會得せしめ得るだけの事項を掲記して戴きたいと云ふのが、本問題を提出した所以であります。聊か簡單に説明申上げた次第であります。何卒滿場一致を以て御賛成あらんことを願ひます。

○富山縣(日南田字八郎君) 意見を述へて宜しうございますか

○議長(飯尾藤次郎君) 宜しうございます

○富山縣(日南田字八郎君) 本問題は道德經濟の發達を計る爲に、最も必要な事柄であると存じます。故に本案を可決致したいと存じます

○富山縣(押田喜訓君) 此問題を可決すると共に、此建議案を作成しなければならぬ故に、可決と共に

提出縣に於て建議案を作成することを、共に御決議を願ひたいと思ひます

(賛成と呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) 第一問題に就て御意見はございませぬか

(異議なしと呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) それでは其筋に建議をすることは、提出縣に任かすと云ふことに就ても、御異議がございませぬでせうか

(異議なしと呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) 御異議がないと認めまして、原案の通り可決し、さうして其建議します事柄に就ては、一切の事項を提出縣に任することに確定致します。次は第二問題に移ります

二、類似組合取締に關する件

新潟支會提出

理由、現行法規定中産業組合に非らずして産業組合たる名稱を用ひたるものに對し制裁なきは組合發達上不利少からざるを以て法の改正を求むるの所以なり

○新潟縣(齊藤善太郎君) 簡單に提出問題の理由を申し上げます。此問題は外でも現はれたことある問題でございしますが、御承知の通り近時此産業組合が發達し、實際の働きを示すことになりまして以來、眞の産業組合にあらずして、之に類似したやうなものが出来、場合に依ては不正の性質を帯びるやうな場合が、ばつ／＼現れて參りました。是が爲に産業組合の發達を阻害することになり、又一面に於ては、一般の取引上、第三者にも危害を與へると云ふやうな事なきにあらずやと考へます。然るに法律は斯の如き事を豫想致しまして、既に「産業組合にあらずして、産業組合の名稱を用ひるを得ず」と云ふ明文は

ありますけれども、偕て之を犯したものに對しては、何等の制裁規定がないと云ふ事は、吾々の甚だ遺憾とするところであり、それ故にどうしても今後此組合が十分なる働きをし、又第三者を保護する上から申しましたも、斯る類似のものには、何等かの制裁を設けて置きたいと云ふ事から、本問題を提出致した所以であります、而して幸に此問題が可決されました以上は、其取扱振に就ては、第一問題と同様に御取扱を願ひたいと思ひます、

○富山縣(羽根又四郎君) 新潟支會から御説明がありました、御説明の如く、産業組合法には制裁がないやうに記憶して居るのでございます、併ながら是は他の法律に於て、制裁し得るやうにも、私は考へて居るのであります之れに就ては幸ひ中央會から、佐藤主事が御臨席になつて居りますから、佐藤主事の御意見を一應確めたいと思ひますが如何です

(「賛成賛成」と呼ぶ者あり)

○(佐藤中央會主事) 第二の問題に付きましたは、何か意見を言へと云ふことでありますが、此問題は會つて全國の大會に提出せられたところのものでありまして、未だに可決してない問題であります、何でさう云ふ工合に可決の出来ないものであるかと云ふと、例へば産業組合に似たところの名稱を用ひて、似たところの仕事をし、それは商法の規定なり、其他の規定の範圍内に於てする事であるからそれを取締るにしても取締りの道は一寸ないので、若し産業組合たる名稱を用ひたる時には、それはさう云ふ名稱を用ひてならないと云ふ事を、行政廳が命令するだけで、それも亦どの位にして制裁したら宜いかと云ふことになり、是も何か特別の法律でも設けて、其規定に依てするとしても、但し不正なる會社例へば事業を實際に施して、關係者に損害を與ふる如きものに付きましたは、判決例に依りまして、其事業を無効とするのと云ふやうな事もあるのであります、例へば不正無盡の如き、さう云ふ制裁の道はあるやうであります、けれどもそれでない正直にやつて居る事になりますと、どうも取締り

の道がない、特別なる法律でも布かなければならないのであります、さう云ふ事が果して出来るかどうかは、餘程の問題であると考へます、それから近頃頻りに各地方に、貸金會社と云ふやうな會社が起つて來るがあれなどは、詰り銀行業に似たものであります、是は銀行條例の方に依て取締ることが出来る、と云ふと、大變に社會一般の爲にも幸福でありはしないかと考へて居る次第であります、又當局に於きまして、さう云ふ事に注意されつゝあるやうに聽いて居ります、さう云ふ事のない限りは、貸金會社は正直に仕事をして居るものに對しては、今日の法律の上では、如何とも仕方がないと云ふ状況であります、自分の大體の考だけを申上げて置きます

○富山縣(日南田宇八郎君) 此第二問題に付きましたは、産業組合の名稱を用ひたる者に對して、制裁を加へたいと云ふ趣旨に外ならぬと思ひます、唯今中央會の御意見も承りましたし、旁々大に是等は慎重に調査を要する事柄であると信じます、故に本問題は聯合各府縣より委員を選出致しまして、さうして明日の協議會までに、委員に附託して十分の審査を乞ひ、其報告を聽いた上で、可否を決したいと思ふのでございます、それで其各府縣の委員の選定に至りましたは、随分多數の御方々であるし、之を選出する上に餘程複雑を來すことであると思ひますが故に、各府縣を代表されたところの代表者が、三名宛御選定御出席になつて居らるゝこと、承つて居ります、其三名の中より一名宛互選をして、委員の選定を御届け願つて、さうして委員會を其方々に委託致したいと思ひます、此動議を提出しますから御賛成を願ひます

(「賛成々々」と呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) 本問題に就ては、唯今動議の提出がありまして、各府縣の代表者中一名の委員を御選ひ願つて、其方々に本案を附託すること云ふ動議に、賛成の方は御起立を願ひます

起立者

多

數

○議長(飯尾藤次郎君) 多数と認めますから、唯今の動議の如く委員附託に決します、次に第三問題に移ります

### 三、産業組合か外國より産業に必要な機械器具を購入する場合は特に輸入税の免除せられんことを其筋に建議の件

岐阜支會提出

理由、競争激烈なる經濟界に處して中小業者が其の産業及經濟の發達上最も苦む所のものは進歩せる機械器具を利用し難きにあり然るに此の窮境を脱せんか爲産業組合を組織し内地に於て製造販賣せざる機械器具を外國より購入せむとするも往々輸入税の爲に其目的を貫徹し得ざるものあるに依る

○岐阜縣(大塚俊一君) 本問題に就ても説明は此所に書いてありまして、更に申上げるまでもないが、産業組合の發達遅々たる地方に於て、外國器具の購入を奨励せんが爲に提出したのであります、さうして又各種の産業は、其やり方が根本的に違つて大規模の經營をなさねばならぬ事になつて來たのでありますから、此問題は、唯今必要を感じて居らぬ地方も、近き將來に必ず其必要を感ずると思ふて提出したのであります、此處に其機械購入に就て苦んだ例を申し上げます、岐阜縣の縮緬業者が寄合まして機械を購入しやうとしました所が、其機械は不幸にして我國にないから、外國から買入れることにして、英吉利の「ロイド」會社から買つて、其代價が八千五百八拾壹圓それに對する關税は、千貳百四拾九圓參拾參錢の多額を要したので、産業組合は苦みましたが、岐阜の其の組合は幸にして支出することが出來ましたけれども、斯の如き加重税を出すことは産業組合は困難でございます、是では折角の産業組合も其目的を達する上に於て困難であらうと思ひます、斯の如く産業上必要であるのに之に對して恩典のない

と云ふのは、政府の意思でなからうと思ひます、關稅定率法を見ますと、其第七條に輸入税免除が列記してあつて、其二十三號の後段に「同業組合」云々と云ふことがあるから、是は或は産業組合が抜けて居るのではないかと思ひますから、適當の方法を講じて貰ひたいと思ひます、滿場の諸君は一致して可決あらんことを希望致します

○富山縣(日南田宇八郎君) 本問題も第二問題と同じく委員を設けて附託したいと思ひます

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) 本問題も第二問題と同様に委員附託の動機が出ましたが、御異議はありませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) それでは、第二問と同じく委員附託に可決します、次に第四問に移ります

### 四、産業組合法第一條第一項第二號及第四號の「生産したる物」の意義如何

石川支會提出

○石川縣(阿部嘉七君) 一寸説明致します、産業組合法、第一條第一項第二號には「組合員の生産したる物」と云ふことが書いてあります、又第四號には「組合員の生産したる物に加工し又は組合員をして産業に必要な物を使用せしむること」云々と書いてございます、生産した後でなければ組合の方で賣つて呉れない、それで如何なるものが組合員か生産したものであるか、又原料に如何なる程度に工作を加へれば、生産した物になるか、各支會の御意見を伺ひたいので、此問題を提出したのであります

○富山縣(羽根又四郎君) 本問題は佐藤中央會主事の御意見を承りたいと思ひますが如何でありますやう  
○(佐藤中央會主事) 第四の問題も私の意見と云ふことであります、此「生産したる物」と云ふ事に付きましては、主務省に於ても、確定したと云ふまでには達して居らないのであります、それで私だけの考



を申して置きます、生産したるものと云ふのは所謂生産したるものでありまして、天然物を採集して例へば海の魚を取つて来たものも生産と言つて差支ない、それから育成でありまして、天然力に人工を加へて植いたもの、例へば稻を培養して米にする、是も矢張生産であり、其次には變形であります、之になりますと云ふと、其形を變へる程度が問題になる、何所まで變へたら生産であつて、何の位から後は生産でないか、それは其場合に依るだらうと思ひます、併し大体に於て、茲に木材がある、それを机なら机にするのも變形である、是も生産したることは申すまでもないことであり、それから變質例へば今まで此所に米なら米を、細菌の力即ち「バクテリア」の力若くは其他の力に依て、之を醗酵して酒にするに云ふ場合に於て、矢張生産したる物で、所謂天然質が人工に依て「アルコール」に變質したのであります、又此所に素焼がある、其素焼に繪を書いても、それも生産であらうと思ひます、併し是は私共の考へで、要するに斯う云ふやうなものであらうと思ひます

○富山縣(羽根又四郎君) 唯今中央會の佐藤主事から懇篤なる説明でありまして、吾々の得る所尠からぬことでありました、就て本問題を見ると意義如何と云ふことでありまして、今の詳細の御説明で分りましたから、之を御答としたいと思ひますが如何です

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) 唯今佐藤主事の御説明にありました通り、「生産したる物」の意義を解釋して置くに云ふ動機が出ましたが、之に御異議はございませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) それでは其通り解釋することに可決致します、次は第五問題に移ります

五、産業組合法第四十條第二項の債權者中には知れざる債權者をも包含するか若し包含するときは貸借對照表中に現はれざる(即ち組合の知らざる)債權者

(損害賠償の債權者の如き)をも含むか尙知れざる債權者に對する催告の方法は如何(民法第七十九條民法施行法第二十六條參照)

石川 支 會 提 出

○石川縣(阿部嘉七君)提出の理由を説明致します、産業組合法、第四十條第二項に「組合は前項の期間内に其の債權者に對し異議あらば一定の期間内に之を述べべき旨を催告すべし、但し其期限は二ヶ月を下ることを得ず」とあるが「債權者」と云ふのは「分つて居る債權者」を含むのであるか、又は「知れざる債權者」をも含むのであるか、民法第七十九條には「知れたる債權者」と「知れない債權者」とを區別してあります「知れたる債權者」と云ふのは、例へば組合が約束手形でも何所に居るか分らぬ場合も含むのであるか、私は此場合は含むと思ふが、疑問である、例へば組合が或る行爲をなした爲に、他人に或る損害を及した場合には、早速損害賠償の債權が其損害された人にありますか、其債權は組合が知つて居る場合と、知らない場合とあります、其知らない場合でも、尙其債權者に催告を爲すであらうか、又其催告方法はどうして催告するのであるか、それに對しては、民法施行法の第二十六條には生産人が、債の權者に對して催告する方法を規定してありますが、其方法に依るかどうか各支會の御意見を伺ひます

○富山縣(羽根又四郎君) 本問題も佐藤主事の御意見を承りたいと思ひます如何でしやうか  
○中央會主事(佐藤寛次君) 此第五問題に就ても、私の意見を話せと云ふことでありますが、之に就ては今農商務省と司法省との間に於て攻究中であり、斯う云ふ問題の起りますのは當然であつて、司法省に於ては前段の方です「知れざる債權者」をも包含するかと云ふことに就ては、包含すると云ふ考であるやうであります、然らば知れざる債權者に向つての催告の方法は、どうかと云ふと矢張新聞紙や官報に依て一般に催告しなければならぬと考へて居ります、併しさうすると組合が困る事があります、それで、多少便宜の方法はあるまいかと、農商務省に於ては講究中であり、其確定に依りまして

之を決した方が宜からうと思ひます、左様御承知置きを願ひます、其中に私の意見もありませんが、此事は凡て攻究中であること云ふことを御知せして置きます

○富山縣(羽根又四郎君) 此問題は佐藤主事の御説明が、今主務省で攻究中であること云ふ事でありませう、其攻究が出来ました暁に於て、中央會報に詳細に掲げられて吾々産業組合に従事して居る者に會得出来るやうにして戴きたい、と云ふ希望を以て、之を決定したいと思ひますが如何ですか

○議長(飯尾藤次郎君) 本問題に就ては、農商務省と司法省とで研究の結果を、中央會の會報に掲載して貰うことに希望して置いて如何でございますか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) それでは異議ない様ですから其通り決定致します、次に第六問題に移ります

### 六、産業組合法施行規則第一條第二項を左の通り改正方其筋へ建議の件

豫約者の其貯金か出資第一回拂込金額と同額に達したる後にあらされは組合に加入することを得す

福井支會提出

理由、現行規則に依れば加入豫約者は其の貯金か現在組合員の出資一口に對する拂込金額の最小額と同額に達したる後にあらされは組合に加入し得ざるの規定にして普通の場合に於て新加入者には出資第一回の拂込を爲さしめ加入せしむるの例なるに拘はらず加入豫約を爲すもの、如き勤勉なる小産業者と認めらるべき者か却て第一回拂込額以上を拂込むにあらされは加入し得ざるの結果を生し加入を困難ならしむるの虞あるに由る

○福井縣(荒井豊治君) 本問を提出したる理由を簡單に説明致します、此所に書いてあるので畧ぼ御承知

であらうと考へますが、産業組合法施行規則の第一條第三項には「豫約者は其の貯金か現在組合員の出資一口に對する拂込金額の最小額と同額に達したる後に非らされは組合に加入することを得す」と斯うあるのでございます、此加入豫約者なる者は無論普通の組合員よりも、一層勤勉なる者と自分は思つて居ります、其者が豫約貯金をしてからに、其貯金の額か現在組合員の出資一口に對する、拂込金の一番少ない者よりも少額であつたならば、組合員に出来ぬと云ふ事になります、是は僅かの事でありませんが、例へば出資一口の金額が拾圓であつて、さうして第一回拂込を壹圓と仮定する、さうすると一年或は二年経つた組合に於ては剩餘金より拂込むものと更に定款に依りましては、六月十二月の二回に拂込む必要、第一回の拂込みより餘計になつて居るに違ひない、さうすると其場合に普通の人が加入を申込み、壹圓を拂込めば加入し得るのが普通の例であります、斯の如く普通加入者第一回の壹圓を拂込さへすれば宜いにも拘らず、豫約貯金をして居る者は、當時の現在拂込金額の最少額としても夫れ以上即ち貳圓或は參圓の拂込をせなければ加入が出来ぬと、斯う云ふ結果になるのであります、それで本問題を提出した理由は、結局出資第一回の拂込額に豫約貯金が達したならば、加入せしめたいと斯う云ふ趣意であります

○富山縣(日南田宇八郎君) 本問題は、産業組合法施行規則改正に就ての事柄で頗る重要なものと信じます故に本問題は第二問題と同一の委員に附託致したいと思ひます

(「賛成々々」「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) 本問題を第二問と同一の委員に附託することに異議はありませぬか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) それでは第二問題と同一の委員に附託することに可決致します、次には第七問題に移ります

七、組合員の公德心の増長を謀る爲め布教師の派遣並に一般宗教家に相當産業組合に關する智識を與ふる様各宗管長へ中央會若くは主務省より交渉方建議する件

富山縣 有限責任松澤南部信用購買販賣組合提出

理由、産業組合員の公德心の向上を圖るは組合の發達上最も肝要の事にして今更贅言を要せざるなり現時組合の状態を見るに眞に道德的信念の本に一致團結を爲すもの尠なく稍もすれば些々たる利害關係の爲め將來を誤るものなしとせず既往に於ける組合不振の原因を見るに其の多くは公德心の欠陥に基因せしものなるが如し故に如何にして公德心の向上を促し得るやを攻究するは目下の急務にして其方法蓋し多々あるへきも多數國民を精神的に支配する宗教家に俟つは最も適當なる方法と認むるを以て宗教家にして産業組合の精神を了解し經濟と道德の二方面より誘導せば其の効果大なるものと信し本問題を提出せし所以なり

○富山縣(高島開作君) 本問題を提出しました理由は、此所に書いてありまして、皆さん御分りになつて居る事であらうと存じます、併ながら尙も少し補足致したいと思ひます、今や公德心の増長を要するところは、一般國民に於ても最も緊要の事でありますが、況して此産業組合としては、公德心の増長を計らなければならぬと云ふ事は、今自分が喋々しくなくても、皆さんは能く御分りになつて居ること、思ひます、現今に於ける産業組合の状況を見ますに、中には動もすれば道德的信念の下に、一致團結して居ると云ふ者が少ないやうに感ずるのであり、場合に依ては、僅の組合員の關係の爲に將來の方針を誤る者があるやうに思ふのです、今日まで此産業組合の多くは公德心の下に働いて居ないと思ひますそれで此公德心の増長を計ると云ふ事に付ては、種々の方法もありませう、或は教育に依ても無論向上

を計らなければならぬが、又他の方面からも向上發展を計ることが必要であらうと思ひます、中年以下の如き進取的の氣象に富んだ者に對しては、十分注入發達を計ることは出来るには相違ないけれども、まだ現今に於ては中年以上の保守主義の人が多くは家長となつて居るから、中年以下の者に向つて公德心の進歩を計ると云ふ事では、非常に遅くはなからうかと思ふのであり、依て此公德心の増長を計るに就ては、宗教家をして公德心の發達を計る方法を探る方が宜からうと思ひます、それで宗教家として、現在地方に有り觸れるところの宗教家に依て、各組合がそれに向つて種々の要求をしても、逆も其要求に満足と與へては呉れない、故に中央會若くは主務省の方から各宗管長に對して相當の交渉をして、さうして布教師の派遣又は、其他に依て相當の訓誡を與へるやうにしたならばどうであらうかと云ふ考で、本問題を提出した次第でありますから、御賛同あらんことを希望します

○富山縣(日南田宇八郎君) 本問題は道德信念を組合員に普及し、さうして公德心の増長を計りたい、是が方法として布教師の派遣を願つて、さうして組合員に之を知らしめたい、其布教師の奨勵方を中央會若くは主務省へ御交渉を願つて、さうして各宗管長に於て、其事に努められるやうに、中央會若くは主務省へ建議したいと云ふのである、故に私は本案を可決致したいと思ひますけれども、幸に第二問題及其他の問題が、委員附託になつて居る事でございます、且つ是は本縣の提出問題であるさうでございますから、他府縣の御意向も充分承りたる後に決したいと思ひますから、是も同しく第二問題の如く委員附託と致したいと思ひます

○議長(飯尾藤次郎君) 本問題は第二問題同様委員附託にする事にして、御異議はありませぬか  
〔異議なし〕と呼ぶ者あり

○議長(飯尾藤次郎君) それでは、本問題も第二問題と同一の委員に附託する事に致しまして、本日の協議會は是で閉會し更に明日の日程に於て委員會の報告を俟つて協議することに致します

## 第一一日

○議長(飯尾藤次郎君) 昨日に引續きまして、協議會を開きます昨日委員附託になりました、第二問以下の問題に就て委員長の報告を願ひます

○委員長(星野耕作君) 昨日諸君の御附託になりました、諸問題に付きまして、委員會の協定致した結果を御報告致します、先づ第二問の類似組合取締に關する件、此問題は委員會に於て、種々審議致しまするに現行法では名稱の濫用に就ては何等の制裁が無い、此制裁を設けたいと云ふことでありましたが段々之を研究して見ます所が、商法の規定や其他種々の關係からして、全然開放して居る事でもなからう、併しなから、將來必要の事柄であるから、此件に就ては中央會へ講究方を依頼致して、御考を願つたらば宜からう、斯う云ふ事に委員會では決しました、それで此問題は「類似組合取締に關し中央會へ講究を依頼すること」斯う云ふ事に決したら如何であるか、と云ふことになりました、それから次に岐阜縣、岐阜支會の御提出になりました、第二問「産業組合が外國より産業に必要な機械器具を購入する場合に特に輸入税免除せられんことを其筋に建議の件」是は組合から申しますると、至極結構なことでありますが、併し此事に就ては關稅等にも大に關係を持つて居りませうし、又一面輸入を獎勵すると云ふ意味にも當りはせぬか、唯單純に解せば此趣意は洵に結構であるけれども、此所に一概に免稅して呉れど云ふことを、建議することはごんなものであらうか、是も重大な事でありますから、免稅して下されば洵に結構だが、或は戻稅とか或は幾分の低減をして呉れることが、出来るや否や、是も矢張中央會より其筋に御交渉を願つて、便宜妥協して貰つた方が宜くはないか、と云ふ事に委員會は決しました、それで字句は「産業組合が外國より産業に必要な機械器具を購入する場合は特に輸入税を低減又は免除せられんことを中央會より其筋に交渉せられんこと」斯う云ふことに致したら如何であらうと云ふ

のであります、それから其次の、福井支會よりの御提出に係る第六問、是は「産業組合法施行規則 第一條第三項を左の通改正方其筋へ建議の件」「豫約者の其の貯金が出資第一回の拂込金額と同額に達したる後にあらざれば組合に加入することを得ず」と云ふ問題であります、之に就ても委員會では大体協議致しましたが、之れは敢て施行規則を改正せぬでもやり方に依つては、矢張此の御趣意を實行することが出来るだらうと考へられます、併ながら是も組合に對しては大切なことと思ひますから、矢張全体に於て之を講究して載きたい、それで字句は「産業組合法施行規則第一條第三項を左の通り改正に付き中央會に於て講究せられたきこと、豫約者の其貯金が出資第一回の拂込金額と同額に達したる後にあらざれば組合に加入することを得ず」と訂正し即ち此條文を中央會に於て御研究を願ひたい、斯う云ふ事に決しました、それから其次に、松澤南部信用購買販賣組合提出の、第七問、是は「組合員の公徳心の増長を謀る爲め布教師の派遣」云々と云ふ件、是も委員會では、段々協議をしましたが、ごうも宗教家に對するのでありますから、何だか宗教家に相當産業組合の智識を、與ふるやうにして貰ひたいと云ふのは少し穩でなからうか、併ながら宗教上より徳義心を養成することの、宜しいと云ふことは論ずるまでもないことでありますから、布教と云ふ方からも注入しなくてはなりません、宗教家に頼みましても單に組合の事に就てのみの公徳心で無く、一般の宗教に就て之を教へるに致しますれば、矢張組合の方にも利益があるから、斯く直接に言はずにどうか宗教家と聯絡を取つて相俟つて、此道義心を増長させて行くことを計つた方が宜くはないかと云ふことが、委員會の決定でございます、それで此文句は、「産業組合の發達を計る爲に産業組合と宗教家との聯絡に付き中央會及支會に於て研究せられたきこと」斯う云ふことに委員會では決定致しました、以上委員會の經過を御報告致しました次第でありますか宜しく御審議あらんことを希望致します

○新潟縣(林靜治君) 一寸伺ひますが、委員會の開かれました手續きを承りたい

○富山縣(羽根又四郎君) 委員會は、昨日午後一時から御會合を願ふことに、直ちに願つた譯でありまして、其際新潟縣からも御出席を願ふことにして居りましたが、御出席にならないと云ふ事で、吾々共は非常に残念に思つて居りました次第でございます、左様御承知を願ひたく存じます

○新潟縣(林静治君) 了承致しました、私共は正午まで居りましたが、喫飯時間に一寸外出したやうな譯でありまして、一向委員會の通知もなく、甚だ遺憾に思つて居りました次第で、御尋したやうなことでございます

○議長(飯尾藤次郎君) 唯今の、委員長報告の委員會に於ける決議に付きましては御異議はございませんか

(「異議なし」呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) 御異議がないと認めますから、第二第三第六第七問題は、唯今委員長報告の委員會決議の如く決定することに致します

○委員長(星野耕作君) 一寸残しました、それで此問題は凡て主催縣の支會の方で其筋への手續をして置くことにしたいと、斯う云ふことでございます

○議長(飯尾藤次郎君) 只今御話の主催縣の支會で其の手續をすると言ふ事も御異議はありませぬか

(「異議なし」呼ぶ者あり)

○議長(飯尾藤次郎君) それでこれも別に異議ない様に認めますから主催縣で取計ふことに決定します、是で協議事項全部を議了致しましたから暫く休憩致します

### 決議事項の整理

右決議の結果に基き第一問を文務大臣に建議し第二、第五、第六、第七の四問を中央會頭に講究交渉方依

頼したり

國定教科書に産業組合概念を掲載せられたき義に付建議

産業組合の目的は社會産業の中心たる中小産業者をして共同自助能く其の産業及經濟の發達を圖り徳義を  
上進し以て健實なる國家の發達を期するにあり之を歐米列國の實例に觀るに健全なる産業組合の普及發達  
する國は何れも健實なる發達を致し隆々として富めり願るに我國産業組合法施行以來既に十有五年此の間  
當局者熱心勸奨指導に努むる所ありと雖其の進歩遅々にして良好なる實績を擧ぐることは是れ固  
より組合經營其の良しきを得ざるに依るへしと雖亦以て國民一般産業組合思想の乏しきに因らすんはあ  
す宜なり之か概念を少年時代より涵養するの緊要なるを認め先年高等小學國定教科書に一課を設け其の概  
念を教示し普及發達に資せられたるは國家の爲誠に慶賀に堪へざる所なり然と雖未だ掲載せられざるを甚  
た遺憾とす蓋し中小産業者の子弟にして高等小學の教育を受け得ざるもの甚だ多きを認むるを以てなり希  
は進んで尋常小學國定教科書にも其の概念を掲載せられ以て之か健實なる普及發達上遺憾なきを期せられ  
んことを

東京、新潟、岐阜、栃木、群馬、滋賀、石川、福井、富山の一府八縣聯合産業組合大會の決議に依り茲に  
謹て建議す

大正三年一月十七日

一府八縣聯合産業組合大會長

産業組合中央會富山縣支會長

濱田 恒之助

文務大臣法學博士 奥田義人殿

産業組合大會決議に関する件

大正三年一月十七日

一府八縣聯合產業組合大會長

產業組合中央會富山縣支會長

濱田恒之助

產業組合中央會頭法學博士子爵 平田東助殿

過般富山縣支會主催一府八縣聯合產業組合大會に於て決議致候件別紙進達候條可然講究并に交渉方相煩度此段及御依頼候也

(別紙)

一、類似組合取締に關する件

現行法規中產業組合に非ずして產業組合たる名稱を用いたるものに對し制裁規定なきは組合發達上不利少からざるに付之か法の改を講究せられんことを切望す

二、產業組合か外國より產業に必要なる機械器具を購入する場合特に輸入税を低減又は免除の件

產業組合は產業の中堅たる中小產業者か協力自助以て產業及經濟の發達を圖り德義の昂上を進め健實なる國家の發展を企圖せんとするにあり然るに之を現況に見るに其の發達極めて遅々にして前途遼遠而して之か經發達上最も苦む所のものは進歩せる機械器具を利用し難きにあり會々外國製の優良なる機械器營具を購入せんとするものあるも輸入税高率の爲價格高價なるを以て遂に購入すること能はずして其の目的を貫徹するを得ざるもの往々にして此れあるを遺憾とす依て產業組合に對しては特に此の場合輸入税を低減するか又は免除せられんことを政府に御交渉あらんことを望む

三、產業組合法施行規則第一條第三項を左の通改正の件

豫約者の其貯金か出資第一回の拂込金額と同額に達したる後にあらされは組合に加入することを得す

現行法に依れば加入豫約者の其の貯金か現在組合員の出資一口に對する拂込金額の最小額と同額に達したる後にあらされは組合に加入することを得ざるの規定なるか此處に一の組合あり而して其の組合員か何れも拂込を了し居れりどせば此の規定は何等勤勉薄資の小產業者加入に便益を與ふるものと認むる能はず何んとなれば此の場合に於ては出資第一回の拂込を爲し組合に加入し等しく共同の利益を得る方最も容易にして且つ得策なり然れども第一回の拂込を爲す能はざる者に對し僅々三ヶ年の期間内に出資の全額に相當する貯金を爲し組合に加入せしめんとするか如きは却て至難たるを免かれず此れか爲遂に加入するを得ざるへし依て上掲の如く改正せられんことを講究交渉あらんことを望む

四、產業組合の發達を謀る爲產業組合と宗教家との聯絡上に付中央會及支會に於て講究の件

產業組合の團結力を鞏固ならしめ其の事業の發展を企圖せんとするには德義心を涵養し以て之か健實なる發達を期せざるへからず然るに現時の狀況に見るに國民は一般己を先にし推讓愛他の公德心に薄く精神的結合に乏しきの感あり故に團體の一般は其の團結力弱きを遺憾とす殊に產業組合の如き信用團體にありては最も痛切に其の必要を感じり依て布教の任にある宗教家と產業組合との聯絡を謀るに於て最も適切なる方法を講究廣示せられんことを望む

## 第一日

## 産業組合聯合會に就て

農學士 西垣恆矩君

私の演題は産業組合聯合會に就て云ふ演題でございます、私は御當縣には丁度三十九年の産業組合講習會に參つたのでございます、それ以來久しく參つたことがありません、今日此一府八縣聯合大會に臨みまして、聊か自分の考て居ることを御話する機會を得ましたのは甚だ光榮とする所でございます、私共は諸君のやうな經營者ではございませぬ、ごちらかと云ふと書物を読み或は研究して居る者で御座りますから自然實地經營して居られます所の諸君に取りましては一向御參考にならぬやうなことが多いたらうと考へるのであります、姑く御静聽を煩したと思ひます、既に、諸君も知られて居る所の二宮尊徳と云ふ人がございしますが、此二宮尊徳翁が云はれたことに自分は坊主と學者は嫌いたと云つて居らるゝ、人の好きいでございしますから何も二宮尊徳翁が嫌いだと言はれた所がちつとも差支はないことで、又差障りのあるべき事ではございませぬが、何故に僧侶を嫌はれたかと云ふ理窟は私には分りませぬ、又何故に學者が嫌いであつたかと云ふことも分りませぬが、併ながら我々が此所で諸君の前で御話することが幾らか學者めいた話になりまして、諸君の參考にならず二宮尊徳翁が顔を顰めて聽いて居らるゝ、かも知れない、其の事は能く覺悟はして居りますけれども、併ながら實地家も時々は學者の事を聽いても差支なからうと云ふ範圍に於て御話を致しますから、採用の出来ることは採用して能くあなた方の御取捨を願ひたと思ひます、諸君は産業組合の理事であるから日夜如何にして産業組合を發達の域に向はせうかと云ふことは念頭に懸けられて居らるゝのである、諸君の熱心に御計畫になつた其通りに産業組合が發達したならば、一

向我々の説を御聽になる必要もないのでありませうが、なか／＼さう旨くは行かぬであらうと考へるのであります、今日我が國には一万有餘の産業組合がございまして、其中で果して優良な組合が幾らあるかと云ふに、僅かに半分位よりなからうと思ふのであります、勿論産業組合法が發布になつてから僅かに十四年でございします、其十四年の間に優良なる成績を挙げやうと云ふことは殆ど期すべからざることであり、諸君に於ても僅かに十四歳位の子供を捕へて此子供は將來良くならうと云ふことは出来ませうけれども、果して今日立派なものであると云ふことは言ひぬのであらうと思ひます、人間の壽命は大概五六十に極つたものである、其五六十と云ふ短命なものですから十四、五の者を指して優良であるとかないとか云ふことが言へぬと同じで、産業組合の制度と云ふものは五六十乃至百年位で壽命の終るもので無ひ、人間の作り上げた組織制度文物の善いとか悪いとか云ふことは、其制度文物が此世界の文明に如何なる貢獻をしたか、人間にどれ位な幸福を及ぼしたかと云ふ点から見て判断をせぬければ、ならぬだらうと考へます、其点から考へると僅かに十三年や十四年を経過した組合制度を優良であるとかないとか云ふことは、ほんの比較の話で良い悪いと云ふことを言ふには、もつと長年月を待たねばならぬことだらうと思ひます、併ながら諸君は此組合を愈々組織された以上は優良にすべく努めて行かなければならぬのであります、其優良にすべく進むと云ふことに就ては必ず多大の理想を持たれることと思ふ、吾人も將來の理想に向つて進む道筋を研究して居るのであるから、自分の一は或は御參考になるだらうと思ふのであります、そこで日本の産業組合を成るべく良くしたいと云ふことは諸君の考から云へば、諸君の組合を能くしたいと斯う云ふことになり、其着眼点からして一二所感を述べたいと思ひます、どうも今日の制度文物凡て餘り形式に趨つて居りはせぬか、少しく不自然の傾きがあるでは無いかと思ふのであります、總て形式を輕んずると云ふことは無論出来ぬものであるけれども、形式に拘泥すると云ふことも亦甚だしき缺點を生ずる基であります、抑々此産業組合の外國に於ける發達の原因を調べて見ると、經濟上の必要から起つ

て居ります、種々困難なる事柄に遭遇して、此難局から救ひ出すには如何にしたら宜からうと云ふ問題に遭遇して、始めて組合と云ふものが生み出されたものでございます。そこで政府當局は此頃妙な組合が出来て来た、あれはどうかなるものだらう人民が聯合して仕事をして居るから、政府に反対のものでなからうかと云ふ疑惑を以て見たのである、是は組合の事が能く分らぬ時であるから無理もないことであらう、それで最初は成るべく産業組合を起させまい、出来て居るものに對しては發達させまいと云ふ考で壓迫して居つたのである、然るに日本はどうかであつたかと云ふと、當局が最初より利益のあるものだと云ふことを認めて、日本ではどうしても産業組合が必要である、之を是非設立せねばならぬと云ふことを言ひ出した、外國のは初めから其經濟事情に適合して居るから都合宜く發達して来て居るが、日本のはさうでない、外國に産業組合と云ふ制度があつて、それが大變結構なものである、それを一つ日本へ持つて行つて日本の今日の状態を改良しやうと云ふ天降りのものである、それであるから日本の産業組合は實地を離れて理論に走つて居る傾きがあるのでございます、さうしてそれを拵へる時に商法の關係から、會社は斯うであるから、組合もこうせねば權衡かどれぬとか、又届出の手續は斯うせねばならぬとか云ふことになつた、我國の産業組合が形式に流れると云ふ缺點のあるのは已むを得ぬことであります、斯う云ふ風な譯柄であつて自然に發達して来たものご事情が違ふと云ふことは、申す迄も無ひのであります、次に一二經營者が不自然の事をして居らるゝ例を擧げんに諸君の中には信用組合を經營して居らるゝ人があらうと思ふが、信用組合を經營せらるゝ間に日々の金錢の出入の結果が、果して金庫に在る金と符合するや否やと云ふことは符合せぬのが普通であらうと思ふ、ところが何れの帳面を見てもそれがかつちりと合ふて居る、之が果して自然であるか否やと云ふことを疑ふのである、多くの場合に合はぬけれども筆先まで合はすと云ふことになつて居るのではないか、外國では小切手で取引をする、本邦にも小切手を以て取引することが發達したら、今日の有様が改良されるかも知れませぬ、もう少し自然に近い結果になるかも知れぬ、もう一

つは購買組合である諸君の中で單に肥料の購買組合をやつて居らるゝ人がありませうが、肥料であるご数が極つて命高が多うございますからして、さう出入が合はぬことはありますまいけれども、田舎の購買組合には日用品を商ふ組合があります、日用品と云ふと味噌、醬油、鹽、紙、筆、釘のやうな細かな物を商ふ組合であります、之を商ふと云ふことは宜いか悪いかと云ふことは問題であります、又之が宜いと致しましても組合を設立した當初から扱はれると云ふことは考へものである、私共の考へるには微細なる日用品を取扱ふには組合が古くなつて、人手でも出来てから取扱ふのは宜いけれども、最初から取扱ふと云ふのは不利益と考へるから先づせぬ方が宜いと云ふ考を持つて居りますが、兎に角それを扱つて居る組合があるとする、其報告書には何品が幾ら、何某が何を幾らで、どう云ふ物が幾ら賣れたと云ふことを報告せねばならぬと云ふ結果として、日々の賣高を人別と品別に記載して行かねばならぬ、私は斯う云ふ組合に於て實際賣れた物と殘高とをきちんとして合ふもので無いだらうと思ふ、合ふのは虚りだらうと思ひます、紙が十枚賣れたと云ふと三合賣れたと云ふ風なものが、それが結末に行つて残つて在る物と賣れた物とをきちんと合ふと云ふことは神でなければ到底出来ない、それを合せるやうにしやうとしたら、理事が書記が筆先で少しどうかせねば行かぬだらうと思ふ、英國邊の商賣を見ると物品を賣る場合に總て現金に致しまして賣れた高に應じて切手割引券を渡して行きます、其割引券が幾ら賣れたかと云ふ証據になつて、組合員は其割引券を持つて歸つて、それを溜めて置く、組合の方から割引券が出て組合員全部に渡つて居る、さうして其数が合つて其合つたものから買つた所の物を差引いて、其殘高を調べて行きますから、先づ外國でやつて居るやうな方法でやれば、結末が旨く符合しますか、日本のやうに紙を三枚、釘を二本三本と云ふ風に渡して居つたら、旨く合ふ譯はない、私は之がきちんとして合ふことを希望するのである、故に之に付ては十分研究しなければならぬと思ふ未だ今日は不自然なことをやつて數を合せて行かねばならぬと云ふ状態に在ると思ふ、是は今日の組合經營記帳が形式を重んずるに拘はらず實際が之に伴はぬからして不自然



に流るゝと云ふ一例を御話をしたに過ぎませぬ、次に今日の組合は經濟上の利益を十分擧げて居らぬと思ひます、此点に付てももう少し考へて貰ひたいのであります、今日の産業組合は勿論組合員道德の啓發に貢献する所がなければならぬ、公德心の養成を圖らなければならぬ、然らずんば組合は時勢に遅れると云ふことに付ては、我々は万々異議はないのであります、併し公德心を養成せんと欲するには先づ組合が充分に經營せられ相當の利益を組合員に與へた後のこと、思つて居ります、故に組合業務の發達を見なければ到底組合の目的も從て公德心の養成も出來ないだらうと思ふのであります、何故に出來ないかと云ふと中流以下の人が多し組合に於て信義道德の話杯は耳に入り悪くはなからうかと思ふのです、何が一番耳に入り易いかと云ふと、信用組合に於ては、幾ら講釋をして聽かせても、中以下の人は理窟や何かは、馬の耳に念佛で一向有難く聞へぬのである、是等の人々を會得さして行くには是までの金利よりも今度は是だけ廉いと云ふことを頭に入れさせなければならぬのであります、購買組合に於ては廉くて良い物が買へるぞと云ふ理窟を幾ら話をした所が無効である、實際的に肥料が幾ら廉かつた南京米が是だけ廉かつたと云ふ實例が現はれなければ組合の成績が擧るものでない、私共の希望する所の精神上の感化と云ふことは一の理想であるから勿論必要であるが、實際に於ては實利實益を眼目に置かなければ今日の組合は發達しないと思ふことを諸君と共に深く考へなければならぬと思ひます、組合が出來ると今度出來た會社がと云ふ諸君は會社と組合は如何なる差違のあると云ふことは萬々御分りですか、しかし多くの組合員は之を以て會社と考へて居る、或は今度出來た店がと云ふ、成程店を持ちますから店に相違ないけれども組合員は理事が商賣をして居るかのやうに考へて今度出來た店は廉いとか高いとか云ふて居る、斯う云ふ程度の人間の多い所へ以て來て、公德心の養成ばかりに力を盡して居つても、到底十年河清を待つと同じであります、それであるから理事者たるものは如何にしたら組合員に實利實益を與へ得るかと思ふことに努めねばなら

ぬのであります、其方法は種々ありませうが、先づ其町村の状態を見て之に適合すると云ふことが最も必要である、御承知の如く御當地には賣藥信用組合と云ふものがある、是は全國に類のない組合でございます、信用程度を調査する必要はない、一の賣掛帳と云ふもので、其帳面も外へ持つて行つたら少しも値打の無いものであるが、其帳面を抵當として金錢の融通をして居る、それでありませうから信用組合を分らずに居る人は是は變な組合であると言ひませうが、我々の考から言へば當市の賣藥業者には適當なる方法であると言へるのである、之が發達して來て今日は十七八萬圓の金を一年に貸出すと云ふことを聞いて居る、尙ほ一層進んで中流以下の者にまで金融を圖ると云ふことになつたら、當市産業の發達に一層貢献する所があるだらうと思ひます、そこで諸君の組合は多く農村の組合でありませうが、他方都會に於ける組合に付ては余程研究をしなければならぬのであります、元來信用組合と云ふものは御承知の通り、獨逸で發達したのでございますが、町で發達した方法と村で發達した方法は全然違つて居ります、全然と云ふと語弊がありますが、餘程違つて居ります、併ながら何れに致しましても小を積んで大を成すと云ふ趣意は能く徹底致して居ります、ところが日本では小を積んで大を成すと云ふ長い間、歲月の係ること、面倒がつて待つて居られない、金を溜めると云ふことよりも成るべく早く借ると云ふことを前に考へる、そこで日本では無盡と云ふものが發達して居つて、市街地と言はず農村と言はず何れも發達して居る諸君も是は能く御存じだらうと思ふ、此組織は所謂小を積んで大を成すと云ふ趣意よりも寧ろ掛金をして置いて自分の必要な時に落して金を借る、先きに取つて仕舞はねは日本人は承知しない成程取つて仕舞へば安心である、兎も角も安心な方法であるから日本に最も適し、最も發達して居るのであります、獨逸の小を積んで大を成すと云ふ主義と、日本人の初め大を取つて後から濟し崩しにする云ふことは、國民性の然らしむる點であつて取換へることの出來ぬことでありませう、今日市街地の組合が發達しないのは無盡を利用せぬからであると思ふ、又今日の無盡に弊害のあるのは全くやり方が悪いので、之を旨く産業組

合に組合はしたら必ず立派に發達するだらうと思ふのであります、然らばどう云ふやうにして無盡と産業組合を組合はせるか云ふことに付ては、今考へ中であつて諸君に對して具体的に申上げることが出来ませぬが、本會には市街地で信用組合を經營して居る人も居らるゝやうですが、是等の人々は目下經營中の組合の組合員を利用して、無盡の掛金、競り落金の割當額を貯蓄して組合の拂込金に充てると云ふ方法を御考へになつたら、信用組合と云ふものは今日のやうな悲境に居らず、大に發達することが出来はせぬかと考へらるるのであります、是は私の考を申上げて置きますから市街地組合の諸君は十分に考へて見て應用して下さることを希望致します、市街地には特に無盡を利用する必要ありませんが、農村の組合にも或る程度までは必要であらうと思ふ、併ながら農村は既に獨逸式の信用組合で發達して居りますから、之を尙ほ一層發達させるには無盡を加味させるか宜いか、矢張り今迄通りでやつたが宜いかと云ふと、是は今私の頭で判斷が付きませぬから、具體的の考を申上げる譯に参りませぬ、何れにせよ都會とか農村とかにより各其状態に應じてやつて行くこと云ふことは、組合發達の上に於て大に考慮を要すること、思ひます、先きにも申しました通り今日の組合は、形式に流れて實際と云ふ方は疎にせらるゝ様に思ふから、是は大に矯正せねばならぬ點だらうと思ふのです、詰まり不自然なことをせずに自然に歸つて貰ひたいと云ふ事と今一つは産業組合の根本義として經濟上の利益を第一に重んぜねばならぬと云ふ点であります、組合は利益がなかつたら發達すべきものでないと思ふのであります、故に今後組合を發達せしめて行くには、是迄私が述べました事を斟酌して進まなければならぬと思ふのであります、もう一つ産業組合を發達させる上から必要なことがあるのであります、それは相互助けると云ふ意味であります、組合を發達させる上からは官廳の監督は勿論、中央會の指導獎勵と云ふことが必要であります、官廳と中央會との間に何か違つて居るか云ふと、一は監督と云ふ側から組合に臨むので、即ち手に劍を持つて組合を取締るのである、中央會の方は御相談をするに云ふ機關であつて、即ち協議的に組合の發達を圖るのであらうと思ひます、

故に共に組合の上にあつて組合を活動するのが此兩者であらうと思ふ、ところで尙ほ此組合が相互助け合つて經濟上の實利實益を圖つて行くこと云ふのが、今御話をしやうと思ふ所の聯合會なるのであります、私は産業組合の過去現在未來を考へまして、之を三つに分けやうと思ひます、明治二十三年から三十三年に至る所の十箇年を試験時代と云ふ名を付けます、此時代は産業組合の先達者が外國の産業組合を見て來て本邦に輸入したのであります、故品川子爵や平田子爵はどうかして日本にも産業組合を拵へて見たい、日本の多數を占める中産以下の者に對して何とか方法を立て、救濟しなければならぬ、其方法としては獨逸に行はれて居る所の産業組合を適用しやうではないかと云ふ考から、其制度を持つて來て色々やつて見てさうして各地に設立されたのであります、三十三年迄に約百五十ばかりの組合が出来て、其成績を見ますに如何にも中産以下の爲めには必要なものであると云ふので、法案が提出されましたが、如何にも必要なものである、是は是非一つ普及して見たいものであると云ふので、法案が提出されました、後種々の變遷を経て三十三年に産業組合法となつたのであります、是は種々試験をした時代であるから産業組合の試験時代と云ふ名を付けたのであります、それから三十三年に産業組合法が發布になりましたから、四十二年の法律改正迄の此十年間を擴張時代と云ふ名を付けたのです、普及時代と云つても宜い、愈々法律が發布になりましたから、始めて研究する所の方が出て、是は良い方法であるから一つ實行して見やうと云ふことで、此間に非常に殖むたのであります、四十二年末には六七千の數に達したのであります、此時代には日本は諸外國と違ひまして、官廳が重に獎勵を致し、又中央會と云ふものが獎勵を致したのでありますからして、天降りの様に産業組合が發達すると云ふことになつて参つたのであります、ところが四十二年に法律が改正になりました聯合會と云ふものの規則が生れて來たのであります、此聯合會と云ふものは組合の足りない所を相互ひに助け合ふと云ふことで、即ち相互主義であります、此相互主義で助け合ふと云ふのが聯合會であります、そこで四十三年から聯合會が段々發達して参ります、四十三年から幾年迄を

聯合會の發達時代と名けて宜いか將來のことでありますから分りませぬが、兎も角も今日は聯合時代として區別を立てたのであります。今日の聯合會の数は三十以上と思ふて居りますが、まだ此他の府縣でも設立して居る所は新潟縣を初めとして、岐阜、滋賀、栃木、東京府等でありますが、まだ此他の府縣でも設立に着手なされて居る所のあるやうであります。産業組合の發達した所は、早く聯合會の必要を悟つて、それが出来るけれど發達が遅れた地方は、どうしてもそれまでの必要を認めることが出来ぬから従つて設立されぬだらうと思ひます。今日は聯合時代であるから諸君と共に聯合會の事を研究するのは無意義でなからうかと思ふのであります。故に是から暫くの間聯合會の御話を致したいと思ひます。聯合會と云ふのは畢竟するに組合の組合であります。組合の組合と云へば明瞭であります。組合が自分の仕事をやる爲めに組合を作つたのである。此組合の組合が如何なる譯で必要に迫られたかと云ふと、之を信用組合の例に依つて御話をして見ると、相互の金融、過不及を補ふと云ふ大事な仕事をするのである。設立後十年を経過して居る所の組合は金が餘つて居るけれども、まだ幼稚な組合は資金が不足をして居りますから高利で金を借りて居りますか、他方金の餘つて居る組合は低利で資金を銀行に預けて居ると云ふ有様でありますから、斯う云ふ金の餘つて居る組合は銀行に預けるのを止めて、他組合と共に聯合會を組織して幾らか高利でそれへ預ける、さうしてそれを金の不足せる組合に貸出す、さうすると借りた方は銀行から借るよりも多少に拘はらず、低利で借ることが出来る、即ち資金の不足して居る組合も餘つて居る組合も利益を得ると云ふことになり、それから聯合會も一の組合でありますから他の銀行會社に比し経費も掛りませぬからそれだけ組合が資金を低利で使ふことが出来ると思ふ結果になります。それからもう一つは斯う云ふことがある、購買販賣組合は必ず資金が缺乏するので、それは肥料を買はなければならぬとか、米を受け入れて賣る時には必ず一時資金に困る、故に一時資金を借入れる所が無ければならぬ、之に反して信用組合は大抵金が餘つて居る、それであるから聯合會を組織すると信用組合に餘つて居る金

が、購買組合に流れ込んで購買組合で餘つた時には、販賣組合で使ふと云ふやうに相互間の流通が出来るのであります。それからもう一つは聯合會の區域が大きければ異種類の組合が一緒になることが出来る、漁村の組合は漁村の組合で金の要る時期が極つて居る、農村の組合は又其の仕入れ時期も極つて居るから聯合會を組織すると資金が都合よく流通されるのであります。金と云ふものは絶えずぐる／＼廻つて居るさへすれば宜い、ぐる／＼廻つて居る間は決して金利は高くならぬ、從て不景氣の嘆聲を聞かぬけれども一方に固まつて流通せぬ時には不景氣を唱へて困るのである、信用組合聯合會と云ふものは金をぐる／＼廻らす所の一の機關である、此聯合會を組織すると銀行から金を借るより餘程低利で借らるゝと云ふのは経費が掛らないからである、組合の理事や役員と云ふものは銀行や會社の役員に比較して報酬が少ない、全然無報酬と云ふことは行かぬが報酬が少ない從てそれだけ経費を要せぬので、畢竟金利の鞘が少なくて済む、即ち貯蓄したものと貸付けるものとの差が少なくて済むと云ふことになる、斯う云ふことであるから組合が幼稚な程聯合會の必要が起つて来る、組合が發達して来ると聯合會の力を藉らぬでも済むけれども、幼稚な組合は是非聯合會を組織し利用せねばならぬと思ふ

次に農村の人はどうであるかと云ふと、米を作ることは上手ですけれども物の賣買と云ふことになる商人の様に行かぬ、但し米を賣ることは上手である、如何にしたらば高く賣れるかと云ふことに付ては昔から絶へず考へられて居る、米を賣る時機を擇ぶことに付ては農家の人は御得意である、併し商人に時々やられるけれども、兎に角米を賣ることは上手である、ところが肥料を買ふことは旨く行かない、況や他の日用品を買ふことになるに非常な下手である、それで聯合會に依頼して買ふと云ふことになれば廉い物が買へる、又組合の生産物を賣る場合にも高く賣ることが出来る、故に幼稚な地方は聯合會を早く組織する必要があるので、殘念なことには其点に氣が付かぬから捨て、置くそれが爲に幼稚な縣や郡は益々組合が旨く行かぬと云ふ結果になるのであります。東京に購買組合聯合會と云ふのがあります、是は農家の肥料の

共同購入をやつて居りますが、十五パーセントの過燐酸を九拾四錢で賣つて更に參錢の割戻をやつて居りますから九拾壹錢になるのです、それから十八パーセントの過燐酸は壹圓拾四錢で賣り、更に參錢の割戻を致し、一俵壹圓拾壹錢で賣つて居る、運賃は地方によつて異なり一定しませぬか、以上の直段は甚だ廉いので農村の人に聞いて見ると、大抵自分の村で買ふより廉いと云つて居るのでありますが、斯う云ふことをやつて居る聯合會もあります、それから販賣の方であります、米の販賣組合を設けてやつて居らるゝ所も随分あるやうに思つて居ります、さて米の販賣組合に付て段々調べて見ると、孰れの組合も大抵一石に付拾五錢貳拾錢、もつと進んで師團に直接納めて居る所では一石、平均廿五錢高く賣れて居る、此様に貳拾五錢高く賣れ、は諸君の郡全体にしたら巨額の利益に上つて来る、富山縣が三十四五年頃東京の滋澤商店へ直接に持つて行つて賣つたことがある、其時に一石に付壹圓六拾錢宛高く賣つて居ります、どうも斯ふ云ふことはあるべきことか疑つたのである、兎も角も富山縣農會の會報に堂々と書いてありましたから、まさか虚りではないだらうと思ふ、是は大變に成績の良い方であり、之がどうして中絶したか其理由は分りませぬが、縣の人の方は其理由を能く御承知でありませうが、今日ではやつて居られぬやうであります、漸く一二回だけ止まつて仕舞つたやうですが、非常に好結果でありながら後が續かなかつたと云ふことを承知して居ります、此近邊は何れも米産地でありまして、新潟縣から福井縣に至るまで米が餘つて居つて、其米を何所へか賣らなければならぬと云ふ地方であります、孰れの農村でも米が餘つて居るから如何にして賣つたならば利益があるかと云ふことに付て研究して居ること、思ふ、そこで販賣組合なるものが必要になつて來るのである、併ながら販賣組合と云ふものは成効が困難であり、之を直ちに組織なさむと云ふことは御勸め致しませぬが、併ながらやり方を研究したら實行の出來ない限りもない、石川縣の模範組合でやつたことに付て述べて見やうと思ひますが、江沼郡勸使村の組合であります、此組合では米を集めずに先づ組合員より何等米幾千賣ると云ふ希望を徴して、証票を集めて

置いて共同入札に付し、競落した商人をして組合員の家から銘々集めさせると云ふ方法でやつて居りますが、是は販賣組合としては最も簡單にして實行し易い方法だらうと思ひます、兎に角簡單で實行し易いと云ふ方法はやつて見て餘り失敗はないやうに思ひます、先刻實驗談として山王道購買組合の御話がありましたが、同組合では商人の所へ通知をして物品を持て來させると云ふことであります、之に付ては缺點があるのです、山王道組合理事の實驗談の跡で直に批評するのは徳義に反するやうですけれども商人が組合へ持つて行つて賣る物と、組合員以外に賣る所の物とは品物が違ふ、即ち品物を替へると云ふ虞れがあります、之がないと云ふことであれば、此方法は非常に簡單で實行し易いのであります、商人と云ふものはどうも裏を掻くと云ふ短所があるから、どうしても組合は倉庫を備へて購買品をなるべく原産地より仕入れて更に組合員に賣却する方が安全であります、尤も商人の弱點を除くことが出來れば山王道でやつて居る方法も宜いかも知れぬけれども、之を附くことか困難と思ひます、同理て又勸使村の販賣組合でやつて居るのも簡單で實行し易い方法と思ひますけれども、其代り裏面に缺點が潜むかも知れぬから、是から始めるには倉庫を借りてやるに若くはないと思ふ、併しさうなれば經費を要しますから、始めの中は前に申した方法で宜からうと思ふ、輒く入り易い方法でやりまして、さうして段々複雑にする様にした方が宜しひ、賣る方法も初めは競賣し段々販路を擴張して直接に軍隊に納入する手段も進んで參りませうし、又各地に在りませる購買組合に直接に賣ることも出来るのであります、從來農家から致して消費者の手に入るまでの間に於て商人の手を経る毎に高くなる、其差を調べて見ると八拾錢から一圓位の値ひらきがあります、これ位の差はありさうなことです、商人は無報酬で奉公するものでない、相當の利益を取つて賣るのであるから、當然のこと、思ひます、故に農家諸君が販賣組合を組織して直に都市の購買組合即ち消費者に賣ると云ふ段まで進みましたならば、一方販賣組合は四拾錢高く賣り、一方購買組合は四拾錢安く買ひ得ると云ふ結果になり、兩方が利益であると思ふのであります、此程度迄進めは双方の

利益であるがまた實行する段に進んで居ないのであります。それは都市の購買組合なり陸軍等は小さな組合より買はんと欲するも米が纏らぬ故迎もまごころこしくつて買つて居られない、それから私は米作と稲作との差違を諸君に申上げたひ、諸君は米作と稲作を同一に思ふて居られるでしょうから今私か米作と稲作とは違ふのであると云ふたら、諸君は氣でも違つて居りはせぬかと思ひませうが、農家が稲を作るのは稲作であつて、我々の口に這入る所の米を作るのは都會の商人であります。商人が米作を爲して農家が稲作を爲すのであります。斯う云つた丈では御分りにならないかも知れませぬが、東京邊で我々の食ひまする米は、五六種から七八種迄混合せられてあります。東京市と云ふ大きな都會があつて、日々何万石と云ふ米が要る、一種類の米を使つて居つたら十日も續かぬと云ふことになる、幾ら富山縣が米産地であつても東京と云ふ大きな胃袋に消費せられるは十日か二十日の間に食ひ盡されて仕舞ふと思ふ、さうすること富山縣の米では後が續かなくなつて御花客の所へ持つて行くに、今迄の米と違ひましたと云ふて持つて行く、さうすると富山米と九州米とは乾燥が違ふから炊加減が違ふ、例へば九州米の炊加減をすると富山縣の米はねち／＼の飯が出来て仕舞つて今度の米は可かぬと云ふことになるから、米屋の方でもさうしたら廉い材料で良い米を作ることが出来るかと云ふことを考へる、それで何所の米と何所の米を混ぜると良い米が出来ると云ふ事を考へて之を賣出す、斯の如く米を調製しまするから均一の良米が絶えず二百五十万人の東京人に供給できる譯になるので、此調査が一の技術であります、之が私の云ふ米作であつて諸君には米作の智識はないと思ふ、斯う云ふ關係から申しますと諸君の組合で千俵賣りたいと思つても、其米は都會の購買組合では買はぬ、即ち米作の工合で之を使ふ事が出来ぬ、一万二万俵と揃ふと年内絶えず調査に使ふ事が出来るから直接に取寄せても宜いと云ふ事になる、かく巨額を纏めさせるにはどうしても聯合會を組織してやつて行かなければ出来ぬ事になるのであります。之れ購買販賣組合の聯合會を組織する必要が起つて來るのであります。大分時間が長くなりました後の方の御話の妨げになるやうですから早く切上げや

く切上げやうと思ひますが、もう少しの間御清聴を煩はします

扱て聯合會は是非立てねはならぬものとし、次に其の區域はどうしたら宜いかと云ふ問題であります、聯合會の區域は大きくした方が宜いか小さくした方が宜いかと云ふ問題であります、大きくする利益は種々あります、即ち金の融通を便利に且つ安くしようとするには區域が大きい方が宜い、區域が大いと相互の貸借の上に於ても工合が宜いと云ふことであります、ところが大きくすれば纏り悪くいと云ふ缺點がある、それから次に聯合會と云ふものは兼營にした方が宜いか、一ツでやつた方が宜からうかと云ふことである、兼營と云ふことになるに金融の仕事から肥料の共同購入なり生産物の販賣なりを一緒にすると云ふことで、單營と云ふと購買なら購買だけ金融なら金融だけ外取扱はぬのことにあります、此二ツの方法が農商務省の主任官會議の時に問題となつたのです、然らば是はさう云ふ方法が宜いかと云ふと、金融と購買販賣とて異なつて居ります、購買販賣の方は郡を區域とする小區域で以て色々の仕事を一緒にやる兼營主義が成功し易いのであります、郡と云ふことになりますと縣より纏りが早い、故に若し肥料を買ふと云ふ時に甲乙丙の停車場で之を取扱ふと云ふことになりますと、郡を區域と致した方が宜いのであります、それから肥料の購入より進んで米の販賣を致しませすにも大變纏りが宜いのであります、故に農村の販賣購買組合を聯合しやうと云ふ場合には、郡を區域とした兼營の聯合會が旨く行くであらうと考へるのであります、多少さう云ふ傾きがあるではなからうかと思ふ点もあります、けれどもまだ聯合會發達の歴史が淺さうございますから、結論を致す程度までは達して居りませぬ、併ながら此点は聯合會を組織する上に研究なされた方が宜からうと思ひます、既に縣全体の信用組合聯合會の組織されて居ります所は、購買販賣だけは郡を區域として小區域でやつた方が成功し易いだらうと思ふのであります、それから信用組合聯合會を經營する上に所屬組合の信用を査定しなければならぬ、各信用組合に加入して居る組合員に對して信用の程度を調べる必要がある、此點は信用組合經營上最も必要なると同じ理由で聯合會を組織しま

した上に信用程度表を拵へると云ふことは、信用組合聯合會を經營する上に於て必要であります、其標準を時間の許す限り御話をして見やうと思ひます、信用組合聯合會の程度表は各地のを調べませぬが、種々になつて居ります、斯う云ふ例があります「貸付金額は出資額の以内なること、貸付要求額は出資額以上なるも組合の資力と理事と保証人との信用程度が十分なるとき、特に國債証券又は確實なる有價証券を担保に供したるとき」斯う云ふやうな抵當を持つて來なければ貸さぬと云ふのもあります、二三調べて見ましたが斯う云ふ物質に重きを置いて居る例がまだございます、それから全く物質よりも精神的標準に依つて居るのがあります、是は斯う云ふ標準です、之を一つ讀んで見ませう

一、資 産 三〇點

拂出資三千圓以上各種積立金一千圓以上を満點とし以下出資金百圓を減する毎に一點を積立金五十圓を減する毎に一點を減す

二、事業及事務 三〇點

定款に定めたる事業を遺憾なく遂行し組合員の産業經濟及道德を進め常に財務を整理して借入金に對し償還を怠る如き懸念毫も之れなく且つ帳簿及書類整頓して錯誤亂雜の恐れなきものを満點とし以下相當減點を附す

三、組合員數 一〇點

組合員二百人以上を満點とし以下十人を減する毎に半點を減す

四、組 織 一〇點

無限責任にして各組合員の資産總額が組合の資産總額の十倍以上なるものを満點とし以下一倍を減する毎に半點を減す

保証責任にして保証金總額が出資總額以下なるものに五點を附し以下一割を減する毎に半點を減す

五、組合格 二〇點

理事監事は勿論一般組合員の人格高く徳義を守り信用を重んじ和衷協同の實を擧ぐるものを満點とし以下相當減點を附す

合 計 一〇〇點

斯う云ふ標準を拵へて居ります、是は物質と云ふよりも精神上に於ける信用査定の標準であります、是に付ては斯う云ふことを考へねばならぬ、信用組合の聯合會は果して組合と同じく、人的の團體であるか云ふ問題である、果して之が信用組合の人的の團體であつたら、人的標準に重きを置くが宜いかも知れぬけれども、若し聯合會なるものがそんな進んだものでなく、物的團體と人的團體の混血兒であつたら、斯の如き標準は餘り相當したる標準でなからうと云ふ結論になるので、そこで私は斯う云ふ標準を拵へて見たのであります、第一物質的標準五十點、聯合會出資口數十點、出資額及諸積立金二十點、臨時拂出臨時積立の方法十點、信用組合に於ては貸付並に貯金額其他の組合に於ては購買販賣生産高十點、合計五十點になります、第二が精神的標準が五十點、(イ)理事監事の人格十點、(ロ)組織十點(無限責任の組合十點有限が零)(ハ)組合員の密度十點、密度と云ふのは區域内の者が全部這入つて居るものを満點とする、それから組合員の這入る度合が劣るに随つて點數を減じて行く、(ニ)事務並に事業十點、組合の効果十點、合せて五十點となるのであります、組合員の密度と云ふのは、現時の産業組合は中流以上の者の必要機關になつて居る、中流以下の機關であるべきものが中流以上の者の機關になつて居る、故に産業組合の目的を完全に達して居ないと思ふ、そこで組合の區域内の人が何割這入つて居るかと云ふと、一割位あしか這入つて居らぬと云ふことは、まだく組合が發達しないので、五六割と云ふことになると半數以上になるから宜しいと思ひます、それから進んで全部組合員になると云ふことになつたならば上流中流下流悉く這入ると云ふことになるから、組合の目的を達したと云ふことが言へる、若し今日組合調査の標準が茲に重きを

置かなかつたと云ふことであつたら方法を過つたものと云はねばなりません、私は茲に此點に重きを置いて組合員の密度と云ふ一項を置いて見たのであります、信用組合聯合會の話は之に攔き購買販賣組合の聯合會になりますと、どうしても購買組合を經營される理事は必らず購買程度表と云ふものを拵へなければならぬ、信用組合ならば信用程度表を拵へて程度を見るけれども、購買組合は程度表を拵へぬ故に斯う云ふ結果になる、借金奨励と云ふ形になる、何も諸君は借金を御奨励になるのでないけれども自然の結果借金を奨励するやうになる、何となれば組合員は幾らでも懸けて組合より買ひ得ることであるから、消費が自然に増すのであります、例へば酒一合で済ました人が二合取つて來ると云ふ風になるから、折角組合が出来た爲めに借金を奨励して組合員の負債が増したと云ふ結果になる、是は組合に於て購買程度表と云ふものを拵へぬからであります、購買組合の聯合會を組織しても程度表を極めて、それだけ所屬組合に貸しても宜いと云ふことを極めてならぬのであります、更に一歩進んで各府縣に聯合會が出来ましたならば更に中央に聯合會の聯合機關、即ち各地の聯合會の上に立つ一つの中央機關が出来ねばならぬのであります、各地に在る信用組合聯合會と、更に中央に一つの産業組合中央銀行とも云ふべき中央聯合會が一つ出来なければならぬのであります、それから購買販賣組合聯合會を一緒に集めました所の中央購買販賣聯合機關を一つ拵へなければならぬのであります、是は如何にして組織すべきものであるか、此の制度はどうか云ふ風にしたら宜いかと云ふことは、諸君と共に研究しなければならぬ問題であります、此事に付ては時間が許しませぬから今日は御話を致しませぬ、是で以てごつこではありますけれども聯合會の事は申上げた譯であります、私の申しましたことは前から繰返しますと少しく極端なことがあつたかも知れませぬが、兎も角も本邦の組合は形式を重んじ過ぎるから、形式から離れて實質に重きを置く必要がある自然に歸ると云ふ必要——、經濟實利實益に重きを置かねばならぬと云ふことを御話を致しましたので、今後經濟上の利益を益々多く致しまするには、聯合會が必要であると云ふこと、更に進んで中央に聯合機關

を設くる必要があると云ふことであります、種々まだ御話をせねばならぬこともありますが、餘り長くなりますから是で御免を蒙ります(拍手)

### 産業組合經營者に對する希望

産業組合中央會主事 佐藤寛次君

只今御紹介になりました中央會の佐藤でございます、皆さんの内には之れ迄て御目に懸つた御方もありませんが、又此處で御目に懸るのか始めての御方も少なからぬのであります、此機會に於きまして將來の御厚宜を願ひ度く存じます

今日は西垣講師から産業組合に關する趣味のある、且つ有益の御話がありました、既に十分組合に關する所の御話は盡されて居るやうであります、今私の御話しやうと云ふ此問題に就ても、大部分済むだやうなことで、更に附加へて御話をしまして、果して皆様の御参考なるかどうか怪しい譯であります、尙ほ本題に入るに先ちまして、少しく中央會の事業を御紹介して置きたいと思ひます、併しもう時間もないことでもありますに依つて、其の事業の大略を御話申上げたいと思ふのであります、此中央會に關係のある御方々は申す迄もないことではありますが、我が中央會は他の印刷物に依て御紹介をして居ります通り、明治三十八年の設立であります、其間に組合思想の普及、設立の斡旋、設立後に於ける指導と云ふやうなことを主たる事業としてやつて居ります、又中央會夫れ自身のみでなく、各府縣にある四十一の支會と共に講習、講話、實地指導を行ひつゝあるのであります、唯だそれだけで組合の發達を圖ることが出来るかと云ふと必しもさうではない、即ち組合思想の普及と云ふことは第一の要件であつて、又最後の要件である、けれ

ども之に加へて考を要するのは産業組合全般に關する資金融通の中央機關の問題であるのであります、是は今更の研究問題にあらずして、中央會創立以來の問題否な、産業組合が日本に出來てからの問題であります、併ながら問題の性質が甚だ複雑に亘つて、いろ／＼の方面に關係をして參りますので、甚だ困難な問題であります、亦さう云ふ困難な問題であるが故に、今日迄依然として研究されつゝあるものであります、悲いかな未だ其研究の結論には達して居らないといふ譯は、組合が十分に自分の金を出して、他の組合資金の足らぬものに送り出すと云ふことが出來れば非常に都合が好いけれども、何分にも我國の組合は其處迄に未だ達して居らないからである、資金の總額は今日四千八百萬圓位である、其金が働く所の總額は一億萬圓にもなつて居ります、尤も其中には借入金も多少ありますから、組合固有の資金は澤山はないのであります、是に於て本年より中央會が、資金供給の方法を立て、資金を要する組合に對し、或多額の資金を有する機關をして資金を供給することに致したのであります、其資金を有つて居る所の機關とは、日本勸業銀行のことでありまして、勸業銀行の現在の貸付總額は一億七千萬圓計になつて居りますから、資金を有する機關として申分のない譯であります、又勸業銀行は之を設立したる目的を達する上に於て、産業組合に貸付をすると云ふ規程もありませんから、法律上の方面から言つても宜い譯であります、即ち勸業銀行は貸さうとするのであつて、組合は借りやうとするのである、貸さうと云ふ人は組合を十分に調べて見なければ貸さぬ、又借る所の組合は、矢張り自分の組合は是々であると云つて、銀行に向つて之を報告しなければならぬのである、さう云ふ事は法律規程の上からも、又實際の上からも當然の事でありまして、ここで中央會は此二つのもの、間に立つて、實地調査の結果、組合が良好であること云ふことになりまして、さうして其組合へ勸業銀行が資金の供給をする様に中央會は奥書きをするのであります、さうしますると云ふと、勸業銀行が出來る丈けの方法をやつて資金を供給するのであります、是は中央會の會報を御覽になつた御方は、充分に御承知のことでありませうから、其詳細の手續きのことには就きましては、今御話する必

要はないと思ひます、若し斯う云ふ必要が有りますれば、各縣の支會に就て御聞きになりませうと何れも御分りになるのであります、さてさう云ふ結果で、どれ丈けのことが今日迄に出來たか、亦何處まで進んだかと云ふと、之れは皆様の前に申述べる程のものはないのであります、仕事と云ふものはなかく考へ通りには進まないものでありまして、幾ら良いものと思ふても、組合の方にいろ／＼の事情があつて、其信用上の關係と云ふやうなことも大にあるもので、丁度新規の醫者が開業したら、難病者のみが澤山詰込んで來て思ふ様に資金の供給が出來なかつたのがあります、然し大体を御話いたしますと七月末日迄に借入れを申込んだ組合の数が二十一あつたので、其借入希望の金額は二十八万二千三百圓であります、さうして其申込みの組合に對して勸業銀行から貸付済みになつたのが十四組合で、其金額は十五万四千五百圓であります、其貸付をするに就て担保を取るかと云ふと、今日迄は取つて居りませぬ、個人保証、即ち保証付の貸付の件数が九つあります、無担保、無保証は五つあるのであります、是が貸付済みになつて居る所の組合の數であります、此他に勸業銀行に對して貸付の申込みをして、其後他の團體から資金を得たる爲め申込みを取消したと云ふ組合が三つあります、其金額は一万五千圓であります、それから組合の信用を調査して見てごうも成績が十分でないこと云ふ所からそれを謝絶したものが四つあつて、其金額は九千八百圓であります、此謝絶をしたと云ふのは、全体から見れば少數であります、金額も極く少ないと、斯う云ふことになつて居ります、要するに此事業は開始以來多くの日數を経て居らない爲めに、未だ組合の數も少ないし、又金額も少ないのであります、此の事業の性質が明になりましたならば、確に一の適當なる資金供給の方法と云ふことを得るのであります、尙利子は今日の所定期償還は七分五厘で、年賦償還の利子は七分三厘であると思ひます、此年賦償還の利子が安くつて、定期償還の方が高いと云ふのは、何となしに言はれがあるやうに思はれる、年賦償還の方が大變に安いやうに思はれますが、是は算盤の上からしますると、此七分三厘は必らずしも然るものでなく七分五厘より安くないことあります、さう云ふやう



な譯でありますが、然らば貸付に多少手数料が掛りはせぬかと云ふと、公正證書の作成費等に少しの経費が掛ります、一千圓に就て約四圓位、一万圓に對して拾圓程掛るのであります、個人保證を執る場合に於ては、保證人の數が多いから書類の數も多く、それが爲め多少餘計に掛ります、併ながら一万圓に就て十圓、千圓に就て四圓の経費でありますから、多額の経費と云ふ譯ではない、是も勸業銀行が取るのでなくして、貸借契約書を作る上に必要なるもので己を得ないのであります、此仲介事業を中央會はやつて居ります、否な中央會のみならず、各支會に於てもやりつゝあるのであります、して其方法は借入金をしたいと云ふことを勸業銀行の名宛に書いて支會に出す、さうすると支會は其組合の状況を調べて、それにして意見を附して中央會に出す、さうすると今度は中央會が矢張りそれに意見を附して勸業銀行に出す、斯う云ふことになつて居ります、かくして組合が資金の足らぬ爲めに仕事が出来ぬ所を助けてやる、斯う云ふのでありますから、必要の場合には便宜上此方法を講ずることにしたなら、組合の爲めになるだらうと思ひます、尤も斯く申すと、私が來て借金を御勧めすると云ふやうなことになるかも知れませぬけれども、さうぢやない、御勧めするのではなく、斯う云ふ便宜になつて居るからと云ふことを御知らせするだけのことであります、併し要らぬ金は借らなくとも宜しいのでありますから、御承知置きを願ひたい、要らぬ金を借りて、それが爲めに組合の前途を闇黒ならしむると云ふやうなことは決して執る可らざる方法であります、其の邊の事には皆様が絶えず御注意なすつて居らるゝだらうと思ひます、それからもう一つ、是も極く近頃やりましたことでありまして、未だ實際の運びが付いてないのであります、それは地方に於て養雞に關する組合が段々興りつゝありまして、我國の養雞事業は、何等かの手段と方法を執つて、今日よりもより多く組合を興し、さうして卵子の生産高を増し、外國貿易上日本が敗けた所を取返し、或は肉食を盛にして健康の人を造つて行くと云ふ方法は大切のことでありまして、先づさう云ふ事業を企てる、組合があつたら、其組合に對して一つ便宜の法を與へて、良い種類の雞を普及したいと云ふのが中央會の考

なのであります、で斯の如き事業を爲すには、勿論商賣人と商賣人との中へ中央會が入つて、品物を販賣するとか、或は其間に儲けるとか、手数料でも取るよと云ふことになりまして、なか／＼事業は發達しない、そこで農商務省の月寒種畜場澁谷分場に於て出來た鶏や卵を中央會が即ち拂下げ人になつて全國の組合に之を配付する、さう云ふ種畜場からして得た所のものを、元の代價を以て其儘配付すると云ふことになりました、御承知にもなつて居りませうが、農商務省の取扱手續が近來改正になりました、産業組合中央會と云ふのが規則の中に入つて居りますから、成るべく養雞に關する産業組合の數を増しまして、さうして分場から種卵、若は種禽を拂下げて、それを以て組合の必要を充したい考で居ります、何れ來月號の會報で、拂下手續と云ふやうなものを皆さんに御知らせする時機があらうと思ひますから、茲には是丈けの話を置いて置くのであります、で此二つが近來やつて居ります所の、在來の外の仕事ですが、此他に組合等で、例へば品物を買ふとか云ふ時に、其仕入先きの調査であるとか、販賣組合であるならば、賣先の調査であるとか云ふことを能く調査してやるのであります、今日の所に於きましては、絶えず調査しては居りますけれども、未だ十分とは信じて居りませぬ、併しながら支會と共に將來此事業を繼續するは勿論のこと、尙ほ一歩進で組合の便宜を圖りたいと思ひます、それから中央會の二部事業としましては、肥料を買ふとか、生産品陳列所を設けるとか云ふことは、是はやる必要はありませんけれども、餘程其利害關係も考へて見なければなりません、兎に角是等の事業を爲すには多少の経費を要するのであります、此経費は即ち會員の負担たるべきものでありますけれども、現今事業費として支出して居るもの、大部分は、政府の交付金であります、中央會のみならず、支會に於ても其費用を使つて居ります、是は我國の國情と、それから亦國家が産業組合の發達普及を圖る必要を認めたる爲めでありまして、今後と雖も経費の交付が殖わて來るかと思ひますが、併ながら産業組合には自治の精神と云ふが土臺になるので、それが土臺となつて中央の機關が完成するのでありますから、此の精神を以て中央機關の維持活動に必要なものは、之を各會員

たる組合に於ても喜んで負担せられ、以て中央會の爲めに御助力を得たいのであります、かくなりまると中央會の働きも益々よくなりまして、組合の發達上貢献する所蓋し大なること、信する次第であります、以上は中央會に關係した事項であります、次に斯う云ふ觀察をして見たい、自分は或組合の組合員として組合を眺めた時の考を御話して見たいと思ふのであります、第一組合の理事者は、一意専心に組合固有の仕事の爲めに御盡力を願ひ度い、我國の組合は、動もすると形式に流ればせぬかと思ふのであります、私共が見て歩きますものに、帳簿とか、或は諸規則と云ふものは整然として備つて居るのであります、此の整然と云ふことは必しも悪いと云ふ譯ではありません、けれども其帳簿より働くと云ふものが組合の事業の上に表はれて來なければ餘り難いものではない、で我國の組合は、外に對して廣告することには随分心配して居る様であります、其爲めにいろ／＼の規則を作り、又作らむが爲めに視察、探險はやつて居るのであります、それが長く効果を表はして行くかと云ふに、一年や二年は作つた規則に依つて、それが實行されることがあるかも知れませぬけれども、決して長く之を繼續されたと云ふことは見ないのであります、或所の組合に於ては、剩餘金を以て、公益事業に向けて見たい、或は敬老の經費に充て、見やうと云ふ計畫もあつたのであります、成程公益事業を爲すとか老人を敬ふとかいふ事につきて剩餘金を使用すると云ふことは、決して悪いことではないけれども、さう云ふことは、結り組合の基礎が鞏固になつてからのやり方ではありますまいか、まだ今日の組合には、固有の仕事で發展を圖る餘地が大部あるのでありますから、先づ此の固有なる活動に専心一意盡力せられて其の組合をば、一人前の立派なものにしてから上記の如き計畫をしても宜しい、自分が小供でありながら、大人の眞似をする、遂には身体が脊せて仕舞ふ、爲すべき事多く、行くべき前途の遼遠なるにも拘らず、未だその基礎が鞏固ならざるにも拘らず各種の方面に手を出すことは感服いたしました、然しいくら固有の事業に専心一意なれと申しましても組合事業に直接關係のあることをも度外視せよといふのではない、即ち組合事業には一の基本が

ある、産業組合法中に、若くは定款中に規定しある事ばかりではない、御承知の通り農業者は今迄稻作をやつて居つたのであります、組合に依つて更に手を伸して出來た産物を處分する方法、即ち米を賣ると云ふこと、之を白米とすることを爲すことになつたのであります、又機業者は機業と云ふことばかりやつて販賣と云ふ方面にも關係しなかつたならば仕方がない、然るに機業者が更に手を伸して、之を海外市場に迄持出すと云ふか如く、自分の勢力範圍を擴張するのであります、然し又事業の擴張方法であるが故に、専ら擴張といふ点にのみ重きを置き販賣方法其の宜しきを得たるを以て能事終れりと爲すべきでない常に根底となつて居ります所の、事業其ものを進めなければ可ぬのであります、事業其ものを進むるには技術の改良進歩であります、産業組合は此の技術の進歩改良とは常に離るべからざるものでありますから、さう云ふ方面に就ても、常に組合の方々は御注意ありたいと思ふ、組合の組織さい濟めば、既に組合の能事了れりと考ふべきでない、事業あつての組合でありますから、其間の關係を十分御觀察なさつて、事業上の技術の進歩改良のことを、常に念頭に置かれて、益々組合の發展を促進せらるゝやう希望する次第であります、斯の如くして事業の改良發達を圖らねばならぬと申します、事業の改良とか發達とか云ふ、一点張りに狭く考へる人があるかも知れぬ、然し決してそれのみではないのである、即ち一方に於ける擴張に伴つて、消極的の働きがなければならぬ、即ち事業の擴張と云ふことに關係して居る所の、いろ／＼の障礙を除却すると云ふ、消極的の働きを考へて行かなければならぬのである、是は申す迄もないことではありますが、殊に農村などには、いろ／＼事業擴張の上に悪影響を與ふる悪習慣、或は弊害と云ふやうなものが澤山あります、例へば信用組合が、何か事業を興さうと云ふ時に、其組合の目的とする事業の發達を圖る方法を講じなければならぬ所へ持つて行つて、一方に地方の悪習とか弊害とか云ふものがあつて、なか／＼其目的を達し得られぬのであります、冠婚葬祭などの場合を考へても直ぐ分りますが、徒に多額の金を無益に使

ひ果し、若くはそれを機會として酒食の慾を逞ふるので、此の結果、或は遂に破産に下ると云ふやうなことが澤山あります、斯の如き悪例、弊習は之を排除することも亦組合事業の發達を圖る一方便であると考へられるのであります、中央會頭閣下の訓辭中にも「消費益々進み生産是に伴はず」と云ふことがありましたが、我國は近來各種の方面に於きまして、此消費と云ふものが非常に發達して來たのであります、外國貿易の關係などを見ますに、本年の前半期にては、約一億一千万圓の輸入超過をして居るのであります、昨年九千万圓の輸入超過、其前年は六千万圓の輸入超過でありましたが、消費増進の如きも其の第一原因であります、或人は輸入超過があつても、餘り心配はない、其中には機械がある、機械は生産を助ける所のものであるから、それを以て外國へ輸出するものが出来る、今こそ輸入超過であるけれども、將來は差支ないと思つて樂觀して居る者もありますが、詳しく其機械を調べて見ますと、直接生産用に供せらるゝものにあらずして、反つて消費増進の用に供せらるゝ機械が大部分を占めて居る様であります、茲に御參堂の諸君の中には、大阪市の電車事業を御承知でございませうが大阪地方の電車事業の中で、最も著しいのは箕面電鐵であります、大阪梅田の停車場から箕面の下迄、さうして一方は寶塚を往還するのである、此邊は大阪附近に於ても、一層人家の少ない所でありませう、それであるから乗客は少ない、そこで電車會社は乗客を電車に吸収する策を致しまして、即ち寶塚に所謂幾千萬圓を費して「バラダイス」樂園と云ふ大浴場を設け、さふして大阪人を其處へ吸収して居るのであります又箕面の前には、動物園及び觀覽車を作つて、其處に大阪人を引張り出さうとして居る、併ながらそれがうまくは行かない、いろ／＼の工風をしてやつて居りますが、天氣の悪い時などは、そんな所へ遊びに行く者はないからして、天氣の好い悪いに拘らず乗客を多くする工夫を廻らさねばならぬ、是に於て會社は軌道の左右に人間を植付けるに如くはないと云ふ考から、今は會社の事業として、其沿道の地所を買つて、それを適宜に分ちて宅地とし、相當の住家を建築して之を希望者に分つ、斯う云ふやうな形で、其處へ永久的に御客を引付けると云ふことをやつて居りま

す、かゝる電車は今日の所消費遊覽を主なるものとしたもので、之に使用する電機は生産の爲めとは申し難いのである、其他歐米より澤山に入る所の諸機械の中にも、今申したやうなことに用ゐられて居るのが決して少くはない、それから瓦斯事業の如き、あれは何に用ゐられて居るか云ふと、ランプの代りとか或は事業を經營する原動力の如きものに用ゐらるゝものもありませうけれども、是でも能く觀察して見ますと、即ち消費の爲めの機會を多くするのであります、それ故に「消費益々進み生産是に伴はず」と云ふことになるのであります、是は「國として非常に心配する所のものであるのみならず、個人として大に心配しなければならぬ」消費は出来るだけ省いて行かなければ、生産は伴はない、ことになりませう、それ汽車が掛つた、隣りに行くにも汽車に乗る、昔は徒歩で行つた所でも、電車が掛つたからうれに乗つて行くこと云ふことになり、電車にて節約した時間は煙草時間と云ふ有様で、實に國家經濟上に於ける損害と云ふものは、非常のもので、又個人の上にも於きまして、其損害は多大のものであります、然しかく消費の節約をなし事業の改善を要すと申しましたが、人生をして無味乾燥なものと思ふのではありませぬ大に働くと共に相當の娛樂といふことも考へねばならぬ、これは市街地と農村とは、各々其趣きを異にするのであります、農村ならば風紀取締をなしつゝ、古來の盆踊様のもをも存続するの要がありませう、兎に角一方に於ては、事業の擴張を行ひ、他方に消費の節約を實行して組合員の幸福を増進する様にすることは大に必要なことと思ふ、即ち組合の目的は組合員の經濟上の實利を擧げるにあつたりますが、併ながら各組合員が自分勝手の實利實益と云ふことのみを念頭に置いて、他人のことは等閑にするご云ふやうなことがあつたならば、組合は到底破壊の運命を免れぬのであります、組合にはどうして組合道と云ふものがなければならぬ、即ち武士の間に武士道と云ふものがあつた様に組合にも組合道と云ふものがなければならぬのである、然らば組合道とは何であるかと申しますと、先づ第一に勤勉にしてさうして質素である、思想の建實といふことであります、而して之に加ふるに、組合員は各他の組合員の爲

めに其の本分を盡し所謂、一人は全組合員の爲めに、全組合員は一組合員の爲めに努力せねばならぬ、即ち物質上のみならず、精神上に於いても組合員は連帯責任でなければならぬ、此の連帯責任は一の重要な組合道であります、かくして組合員をして私徳と公德を守るの人たらしむるのであります、我國の組合には連帯責任の精神が欠けて居るやうである、例へば養蠶業に關する産業組合は、何故に成功しないかと云ふと組合員が自分の都合だけを考へて、其齒の値の高いときには商人に賣り離し、安價のときに限つて組合に提供する様な有様であるから組合事業の成立は六ヶしくなるのであります、此の如く組合員の心掛は組合全体に影響するのでありますから、組合員は他の全体の利益の爲めに其の本分を盡さねばなりません、且つ或組合員が其の責任を盡さないからと云つて、他の人も亦本分を盡さぬことになつてはなりません、他人は兎に角組合員の總てはかくして其の分に應じ、組合の爲めになることを十分の腕を奮ひ、頭を働かして實行するといふ、確信を有つて居らなければならぬ、さう云ふと、大變六ヶしいやうであります、然し決して立派な行爲を要しませぬ、即ち組合には日常の生活がある、其の生活を圓滿に爲し遂げる爲めになることであればよいのである、例へば總會を開くとする、其總會の時間に合ふ様に早く集合することが必要である、又借りた金は期限通りに返すのが組合の爲めになるのであるから必ず之を實行するといふ様に力のある者は其の力を以てし、學識のある者は學識を以てし、經驗のある者は經驗を以て組合の爲めを圖るのであります、尙詳しく申さば稲作の上手な人は矢張りそれを以て組合の爲めに盡すのである、それが爲めに自分の利益を侵害せらるかと云ふと、さうぢやない、組合の發達と關聯して、自から其の人の利益をも擴張するのである、此の如く各自が組合の爲めに應分の事を爲すことは即ち組合道であります、さう云ふ其組合道の確立と云ふことがどうしてもなければならぬ、これが出來て組合事業がうまく行かぬ筈はないと思ふ、尙最後に申上りたいことは吾々の日常生活は、いろ／＼の關係に依つて複雑して來て居ります通りに、此組合の事業も他の團體と色々な關係を生じて來て居るのであります、例へば養蠶組合が

或村に起つたとする、最初は其の村の産業組合と協力して事業の改良をすることとする、所が養蠶組合も段々進歩して來て、財産でも持つやうになる、さうすると勢ひ一方産業組合とは獨立して仕事をして見やうなごゝ云ふことも起るのであります、養蠶組合の財産の如きは共有の關係であるから不確實のものであつて餘程の心得を要するのであるから、此の如き場合には寧ろ産業組合内の別働隊として養蠶組合の發達を圖ることとし、組合の經濟力を集中することとし、産業組合が其地方に於ける經濟の中心となつて、各種團體の始末をして行く考がなければならぬ、

要するに産業組合に於きましては(一)専心一意事業の進歩を圖り其の基礎を鞏固にしなければならぬ、(二)組合の發達を促すに就ては、常に組合員の技術の進歩を圖らねばならぬ之と同時に、地方に於ける悪弊を矯正し消冗費を節約せねばならぬ、併し消費の節約と申した所が、世の中を沙漠にするやうでは仕方がない、其點は最も能く考を著けて行なければならぬ(三)さうして組合道を確立し、組合員の歸趣を明にし(四)かくして地方改良の中心點となり、各種團體といろ／＼の連絡を取つて國運の發展の上に寄與したいといふ考でございます。(拍手)

### 第一一日

### 優良組合ニ對シ聊カ祝意ヲ表ス

内閣兼内務省囑託 國 府 種 德 君

本日の大會に際しまして、小橋地方局長が臨席になる豫定でありましたさうでございますが、朝鮮の視察中でありまして、豫定よりも後くれられたと云ふことで、誰か代理が行つたら宜からうと云ふ電報であり

ましたが、他に差支が多うございました所へ、丁度私が高岡の青年大會に参りました爲めに御當所に参りまして、諸君に御目に懸るやうな事になつたのでございませう、唯今優良なる組合の表彰式に参列することを得まして、誠に喜ばしく存する次第であります、慎んで祝意を表します、さう云ふ次第でありますからして、別に御話をする材料を持合はして居りませぬのであります、何か話をせよと云ふ御注文で、實は當惑した譯であります、段々考へて見ますに日本の府縣の中で、御當縣はと産業に因の深い名を付けて居らるゝ縣はないのであります、北は青森より南は鹿児島端まで、縣の名前を連ねて見ると、青森、秋田、岩手、宮城、千葉、群馬、栃木、埼玉、神奈川、山梨、長野、静岡、岐阜、三重、愛知、それから南の方へ行つて見ても分りますが、富を有すること山の如しと云ふ縣は、日本に唯一つよりない、之に類似の縣は、福島と福井と福岡とであります、併ながら福井は、唯た一の井戸があつて、そこから福が湧いて出ると云ふだけであります、福島は、海の真ん中に島があつて、そこから福が出ると云ふ意味であります、福岡とても、福が岡をなす位でしかないのでございます、然るに御當縣は富、山を爲して居ります、富山縣と申しますと、何人でも水害地であるかと考へ居つたのであります、大川が幾つもある、立山が時々大なる水を吐出して、之が田地を荒して名前こそ富山縣ではあるが、一向富山でなかつたのであります、然るに近年は治水の事業其効を奏しまして、之が結果として米の産出も非常に殖え、已ならず古より水産に富んで居つた上に、近來種々製造上の改正を加へられた結果、水産も非常に進歩して居ります、是等の物を吐出す港も、久しい間誠に憐れな有様でありましたが、昨日も二十幾年振りで見ますと、伏木の港は面目を一新して居ります、成程是でこそ始めて富山縣といふべきであります、然る所本日此大會に罷出まして、色々な協議の模様や何かを御聴きしますものに、産業組合其物も御當縣では餘程進歩して居るやうに承はつたのであります、大變慶ばしいことでありまして、此前富山縣が、事實の上に富、山を爲す縣になることを切望するのであります、各組合一個、一個も富、山を爲す日が遠からず來ること、信す

るのであります、日本が財政上に困難をして居ると云ふことの御話がありました通り、歐羅巴にも一たび之に類した境遇であつた國があります、御存じの伊太利であります、今日は最早さうではありませぬが、以前は久しい間財政困難をして居つた國であります、然るに又一方から云ふと、組合の最も發達して居る國は、伊太利であります、好い事ばかりでもありませんが、此所から出稼人が澤山出て居ります、是が米國へ歸化する労働者であります、日本から行つて居る労働者に對して、常に敵の如く思つて、排斥運動を爲して居るものは、伊太利人であつて、日本に取つては面目くない國であります、けれども盛んなことは事實であります、伊太利の獨立が完成せられたのは、明治四年で、日本の御維新の事業將に緒に就かんとする頃であります、國の出來上つた時が日本の維新と、略ぼ同一であるのみならず、伊太利はそれから三國同盟に加入して、獨逸の眞似をなし、軍備擴張をしなければならぬと云ふので、之をやつた爲めに負擔が重くなつては國が非常に疲弊しました、羅馬法王杯にも、多額の金を毎年支拂はなければならぬ、佛蘭西あたりから借りた金には、多額の利息を拂はなければならぬと云ふことになつた、確か日清戦争の前後でありましたが、財政の困難は其極に達しまして、其當時の事を御存じの御方は、御記憶でありませうが、クリスピー内閣が、三度迄も財政困難の爲めに起つたり倒れたりしたのであります、然るにさう云ふ時代を經過して來た伊太利も、近來は全く斯の如き状態ではなくなつて來たのであります、それはどう云ふ譯かと云ふと、僅に七八年の間に、丁度日本で云ふ産業組合、是が非常に勢ひを以て發達したのであります、小さい産業者が寄集つて拵へた組合のた蔭で以て、是まで非常に高い利息を拂つて運轉して居つた所の資金を、段々低利に借換へまして、其の間の關係が、頗る圓滿に活用されるやうになつた結果、農事が進みまして、農産物の外國市場に現はるゝことが盛んになつて参りました、隨て伊太利の農村が富み、其富みました農村が、極く廉い利息で資金を運轉して居るのでありますから、總て生産物が廉く出來る、之を町へ出して、そこで加工致しまして、製造品として外國へ賣出すのでありますから、物品が廉價な割合に

品質が良い、それであるから競争者がたまたまなくなつて、競争止めると云ふ形ちになるから、段々販路が  
 擴まつて、伊太利の貿易は、近來非常な進歩を爲して居るのであります、其原因は、即ち産業組合の進歩  
 に在るのであります、向ふでは日本の信用組合に當るものは「ビークルスバンク」即ち、人民銀行と云ふ名  
 を付けて居ります、働き振りは機敏であります、最初は獨逸を真似て拵へたけれども今日は獨逸の上に出  
 て活動して居ります、町と農村との連絡が取れて居りまして、町の資本が農村に廉く卸され、隨て農村か  
 ら、種々な物を供給するにも、廉く供給すると云ふ、相互關係を爲して進みつゝあるのであります、日本  
 に取つて好い手本だらうと思ひます、丁度日本の發達と時代迄も同じでありますから、是等のことは御承  
 知置きを願ひたいと考へます、昨日來種々御協議等もあつたやうでありまして、今日是以て終りを告げる譯  
 ではありませんが、どうか組合の結果を、斯の如きまでに有効ならしめたいものと考へます、連絡さへ取れる  
 ならば、必ず目的を達することの出來ぬ筈はないのでありますから、其意氣込で更に此上ども、組合其物  
 の働きを敏活にして戴きたいと思ふのであります、敏活にするには、内容を整へられて、組合と組合との  
 關係を密接にするとか、色々の事がありませうが、それ等の方法に付きましては、やらうとすれば何れど  
 も出來る譯であらうと思ひます、近來此組合が全國に普及して居りますことは、恰も自治團體が、日本全  
 國に普及して居ると同一であります、産業組合の成績を擧げて居る所は、同時に町村として成績を擧げて  
 居る、鳥の翼の如く、相俟つて成績を擧げて居るのであります、私共は自治の方面から、始終町村の事を  
 研究して居りますが、到る處多少の成績を擧げて居る所には、必ず組合の成績を認めることが出來るので  
 あります、多言を要する迄もなく二つのものが相俟つて、地方の開發を盛ならしめて居る實例が、極めて  
 多いのであります、去ながら其基因は、實力の養成であります、念ふに組合の事業の如きは、今日畧々  
 形だけは出來上りましたけれども、是から後ちの精神を込めて、事業をやつて行くと云ふことに付ては、  
 今一層奮發をして戴きたいのでございます。

諸君の如き熱心なる方々が、此前立派に組合を出來上げられまして、種々な事業を計畫せられ、必要に  
 應じ平生から能く臨機の處置を執られ、地方をして益々進めて行かれると云ふ心掛けを以て戴きたいので  
 あります、丁度思ひ出しましたが、昔熊本に戴孤山と云ふ先生がありました、此先生平生甚だ質素な人で  
 あつて、一向容貌や何かに頓着をしない、始終破れた袴を穿き、垢深みた羽織を着て、それで殿様の前で  
 も、平氣で押して出ると云ふ、一種變つた學者であつたのでございます、斯う云ふ奇人ではありませうけ  
 ども、兎も角も當時學問甚だ深くして、江戸でも有数の學者として稱へられて居つたのであります、始終  
 藩侯の前に出て、經書の講義杯をやつて居つたのであります、或時藩侯から、賞與の金を戴いたのであ  
 ります、自分の考では「是は自分一人の力で、斯の如く賞與を受けた譯ではない、自分は無頓着者であつ  
 て、一向大した事もやうせぬが、友人や親類が、色々力になつて呉れる、それが爲めに、自分は斯の如  
 く殿様にも大事にせられ、世の中からも、重んぜられるのである」と考へたのであります、恰も今日表彰  
 された、優良なる組合の御方々と同じ位置に在つたのである、そこで賞與の金を戴いたのであるから、宅  
 へ歸つて、友人や親類を集めて、御馳走をしようと思つたのでございます、今は最早晝頃にも迫つて居り  
 ませう、もう十二時に近きこと七分でございます、先生は屋敷から出て、日本橋の海岸へ來て、鯛を買は  
 うとしたのであります、至つて無頓着な先生で、簡単な事を好む人であるから、餘計色々な物を買込むよ  
 りも、大きな鯛を一尾買つたら、それで刺身も、焼き肴も、たつゆも出來て、重寶である云ふ所から、  
 大鯛を買はふといふので、魚海岸で一番大きい魚屋へ這入つたのでございます、ところが容貌甚だ揚らず  
 眞黒けな顔の中から、眼ばかり光かつてをる、着物は垢染みて、袴は破れて居ると云ふ先生であるから、  
 懷中に大金を持つて居らうとは、誰も思つて居りませぬ、然るに此御侍の目に着いたのが、大きな鯛であ  
 ります、其鯛を買つて歸る積りで、先生直ぐに這入つた所が、亭主が、ひごく迷惑さうな顔をして居る、  
 「汚い御侍だから、買ふにした所が、金が有りさうもない、さらばごふ云つて賣らぬと云ふたら、侍であ

るから、どんなことをするかも知れぬ、あの腰に差いて居るものが恐ろしい、是はとうしたら宜からう」と心配して居つた、其内に孤山先生が愈々其の大鯛を買ほうとせられた、どうせ金を拂ふだけの力のない人物と見て居るから、魚屋の亭主は何か頓智で以て、一ツあの侍を追つ拂ふに如かずと考へたのである、乃で即坐の智慧を絞つた所が、意外な名案が出た、早速先生に向つて言ふには「此鯛は實は少々曰くのある鯛でありまして、尊公が御買ひなさうとしても、直ちに上げるといふ譯には行きませぬ、一應鯛の了簡を聞いて見てから、上げませう」と云つたのであります、孤山先生は、不思議なことを言ふ亭主だと思つて「聞くなら聞け」と云ふて、控へて居られませぬ、亭主は鯛の側へ来て、口を耳の邊へ付けて、耳があるかないか分りませぬが、耳のありさうな所へ口を付けて、物を言つて居る「鯛や、今あの御侍さんが、お前を連れて行かうと云ふて居られるが、お前の了簡はどうか」と言つて、其れから耳を鯛の口へ宛て、頻りに合點して居るのであります、するに鯛が何か言つたものと見えます、亭主は頻りにうなづいて、それから孤山先生の方に向つて「唯今御聞きの通り鯛の了簡を聞いて見たのであります、あの御侍さんの所へ行きたくない、御免を蒙りたいと申して居りますから、此鯛はあなたに上げる譯には参りませぬ」と云つたのであります、そこで先生もさる者であります、其利那に亭主の腹の中が、ちやんと讀めて仕舞つたのでございます、乃で先程頂戴した金があるから、其れを取り出し紙の上に竝べて、手の上に据へ「そんなら私も相談がある、亭主や之を前にやらうと思つたけれども、是も一應了簡を聞いて見ぬといかぬ」と云はれまして、それから小判の所へ口を付けて「小判や私はお前を魚屋へ置いて行かうと思ふが、お前の了簡はどうか」と言つて、それから耳を小判の上に當て、「ん、そうか」と合點した上で、亭主に向つて「今小判の了簡を尋ねた所が、あ、云ふ變な事を云ふ魚屋の所に置いて行かうのは嫌やだ、御免を蒙りたいと云ふから、甚だ氣の毒だが、是は持つて歸る」と云つて、懐中へ入れて持つて歸られたと云ふ事でございます、随分世の中には容貌に似合はない實力の有る人がある、商業に従事して居る経験か

ら云ふと、斯の如き失敗が幾らもあるさうであります、已ならず孤山先生は、文武兩道に秀でた人であるから、中々人に負けない、何か事が起ると、敵の持つて来る刀を奪つて、倒さに向ふを刺殺し、背負投げを喰はしたのであります、人生時々刻々戦ひであります、色々な事柄が思ひ掛けもない時に起つて来るのであります、其時に潰れて仕舞ふ人と、弾力を以て撥附ける人とがある、此弾力が無ければならぬ、一個の組合としても、弾力がなければならぬ、一個の町村としても、亦弾力が無ければならぬ、既に町村を成し、又それに必要な組合を成して居らるゝ以上は、是れ即ち國家の土臺石であります、故にどうか孤山先生の如く、卒然として事の起つた時にも敗けを取らず、弾き返すと云ふ實力を鍊つて戴きたい、獨り組合其物ばかりでなく、一家一國を治める上に於ても、是が一番肝要なこと、思ひます、今日御集りの諸君に對し、お芽出度いといふ所に因みまして、鯛に關します御話を以て、聊か祝意を表すると共に、地方局長の代理として、誠に御粗末な御話より出来なかつたことを御詫ひ申上げて置きます、丁度午砲が鳴つたやうでありますから、御宿所へ御歸りになつて、御名々が此大なる鯛を味つて戴きたいのでございます。(拍手)

## 實 驗 談

七四

### 第一日

群馬縣有限責任山王道信用購買組合理事長 大和浩三郎君

私が此演壇に立ちまして、諸君に御話するは甚だ光榮とする所でございます、何等御話する様な事もありませんが、暫くの間御耳を拜借致します、私の村は名和村でございます、佐和郡の中央市場なる伊勢崎を南へ距る一里の地にありまして、地勢平坦、地味は沃饒でございます、さうして利根川の西より南に遡り、養蠶の業は夙に開けて居りまして、又禾穀の生育に適するのでございます、其他伊勢崎織物の生産を副業として地方の生産力は盛でございます、然れども沃土の民は却つて窮するの言に洩れず、人口は稠密にして小産者多く、概して其日暮しの状態にあります、依て後日の爲に貯蓄を爲す如きは極めて稀でございます、故に絨物の商況一度不振を呈しますと、困難一時に至ると云ふが如きは一般の状態でございまして、私の組合の所在地、即ち山王道村は名和村の東北隅にある二百戸未満の一部落でございます、地方にありて比較的農業に重きを置きますのでございます、堅實の志氣には富んで居りますけれども、維新以來經濟状態の變化に伴ひまして、徒に生計の向上にはかり越りまして、收入之に伴はず、住民を驅つて漸次生活困難の状態に陥るやうな場合になります、故に知らず識らず祖先傳來の土地を失ひ、終には無資産となる者が次第に現出しますのでございます、今にして之を顧みる所なくんば、日に貧者の數を増し中等階級者の地位も亦自から危からんとするの状態に至りまして、之に加ふるに明治三十五年五月非常の雹害がありまして、其爲に春蠶及麥作は、一粒の收穫をも得ることが出来ませぬことがありました、斯の如き災厄

に遭遇し爲めに一層困厄の状態に陥りました、是が本組合設立以前の状態でございます、それで次は設立の事情でございますが、地方の状況は前述へました如くで、而して始めて其危殆の状態にあるを絶叫し、村民の覺醒を促したる者は、當時村農會の委託を受けて、米麥作の試作を担当して居りました四五の青年でありました、其當時私は村長や村農會長の職にありましたが、其青年の數人が打ち寄つて、地方經濟状態の斯の如き場合に立至りましたに就ては、勤儉貯蓄の一日も忽緒に付すべからざるを唱導されました、三十二年九月山王道貯蓄組合なるものを設けたのでございます、其事業の方法と云ふものは一口の貯金額を毎月十錢宛積立てる事にしまして、幾らと云ふ制限は別に設けません、五戸、十戸位を各一組としてそれに世話を置き、集金其他の事務を掌ることにしました、幸にして、一村の有志者は此舉を賛助しまして、此計畫を大に助けて呉れました、事業の執行、貯金勧誘、其他取集等、皆有志者の盡力に依て毎月貯金の習慣を養成しました、此貯金組合は五ヶ年やつて居りましたが、大に經驗も積み、それで五ヶ年経ちまして満期となりましたが、其約に違ふ者は一人もございませぬ、三十七年九月に期が満ちまして、四千餘圓の金圓を分配しました、其時恰も日露戦役の酣なる時でありまして、分配金を以て國債の募集に應じ、或は土地の購入、肥料舎、倉庫の建設等の資に供しまして、今に其紀念を遺すものが澤山ありました、斯くの如く貯金組合は約束の如く解散したるものから、村民はそれが爲に茲に、唯一の金融機關を失ひまして、其不便不利を感じましたので、重ねて其組合を設立するの希望を懐く者が澤山出ました、是に於て前組合の經營者は、進んで産業組合法に依て、信用組合を設立しやうと云ふことで、茂呂村に故品川子爵の提唱指導になりました、信用組合がありまして、事務處理の方法の如きは範を之に取りまして、更に又本村の事情に適合するやうに、定款を作成しまして、村民の同意を求め、明治三十八年二月を以て、我信用組合は設立の認可を得ました、越えて三十九年九月法律の改正に依て、購買事業を経営する事に致しましたので、事業經營の方法は前の貯蓄組合の範に倣ひまして、専ら簡易を旨とし、資金

七五



の拂込の如きは之を貯金に依て爲す事にしまして、其貯金を甲乙の二種に別ちまして、甲は出資一口に付毎月未金十五錢宛を貯蓄する事にしました、斯の如くに定款を作成したのであります、是は一寸やり難き様でございますけれども、吾が地方は織物の賃業が盛なる土地でありますから、毫も苦痛を感ずるやうな事はございませぬ、却て一時に數圓を拂込むのは難儀すると云ふやうな地方の状況であります、故に斯の如く規定しました譯です、それで乙種貯金は、通常の貯金でありまして、預入拂戻等に何等の制限は加へませぬ、其結果が至極宜い塩梅に參つたのであります、故に知らず識らずの間に出資の拂込も出来るのであります、又乙種貯金に致し文しても、初めは甚だ振ひませぬでしたが、貯金箱等を頒ち、一年數回集金人を巡回させ、之に誘導させましたから今日に至りましては、進んで貯金を爲すやうな風習になつて居ります、當時其額七千餘圓を算するやうな状態です、而して甲種貯金強制の方法は、毎月一定金額の拂込みあるを豫知し得るから、資金運用上にも亦大に便宜を得ました、貸付金は概して農業資金が主でございます、即ち土地の購入、改良若くは肥料、養蠶の資金とし何れも無抵當にしまして、保証人を立てさせ、返済期限は、一ケ年以内として置きます、さうして事業の大小、其他の事情に依りましては、年賦償還の貸付法も設けて居ります、借入金は、初め之を爲さぬ方針でございましたが、三十八年の米作の凶歉以來其後災害等が相續きまして、其當時は設立日尙淺く、資金も寡少でございましたから、それで災害の困厄を救ふことが出来ませぬで、群馬縣の農工銀行より、金壹千圓を借入れましたが、約束の如く四十三年になつて之を返済しました、四十四年頃に至りましては、組合の資金を以て需用を充たすを得て、借入をなすの必要なきに至りました、購買事業は主として肥料の購買であります、又僅少の生計用品の取扱をなすのであります、而して其方法は豫め組合員の申込を徴し、概畧の數量を纏めまして、さうして商店と特約して價格の約定をして置いて、組合員を個々別々に組合の發行する所の傳票を持たせて、さうして所要の數量を商店より引取らしめ、引取終了後に至つて、組合が精算を成すと云ふ方法を取つて居りますから

購買品の殘品を生ずる事もなく、洵に事務は簡捷に執行が出来ます。

是から有形無形の効果を少し御話致します、第一は金利の低下でございます、組合設立當時の地方金利は年一割五分以上でありましたが、組合は初より一割二分を以て融通しました、故に地方に於ける貸借も矢張之に倣ふやうに至りました、而して大正元年度より尙低下させまして、一割一分に減しましたから、一般の金利も軽減することございませう、從來は貯蓄心の極めて薄き地方でありましたが、組合設立以來八年の星霜を経て、此所に壹萬七千有餘萬圓の組合資金を蓄積しまして、共同の効果を多く現はしました、今や範を本組合に取つて設立する組合も多く出来ると同時に、又此組合の區域内にも、幾多の貯蓄團體が大分出來ました、斯の如く勤儉蓄積の風が昔日に倍し、良俗の涵養に資するところ多いに見ゆるやうでございます、肥料資金は組合設立前に在りては、中小業者の多數は肥料商より比較的高價の肥料を借入れしまして、收穫後金利を添えて返済すること云ふ風で、殆んど肥料商は一面農家の資本主たるの觀がありましたが、組合設立後は、斯の如き事は一も無く、肥料商との直接關係を絶ちまして、組合に依て需給する事に至りました、一村金融の獨立も出來、今や組合の資金も充實しまして、村内の需用を充たすことが出來、一村經濟の獨立漸く成らんとするに至りました、斯の如く共同の勃興、組合の發展に伴ひ、村内各種の事業亦皆圓滿に進みつゝありませぬ、尙産業教育納税等總て、年と共に良好の成績を擧げつゝあります、又共同相助の精神を、大に養成せられたやうに見えます、戊申詔書の實踐躬行は、最も努めつゝあるものであります、大要右述へました如くであります、本組合の發達の跡を回顧しまするに、前進組合に比して特殊なる施設の一も較ぶべきものはないのであります、要するに坦々たる道路を順調に間斷なく進みまして漸くにして此所に至りましたのであります、聊か實行したる儘を述べました次第でございます。

## 富山縣有限責任横田信用購買販賣組合組合長 堀 二平 君

私は斯う云ふ演壇に登つて諸君の御参考に供する程の事項は持ちませぬ、けれども私の組合の成立つた次第などを聊か申述へまして御勘辯を願へます、去る三十八年三十九年四十年の此三ヶ年に私の地方に於ては不作が續きました、それで小農者は非常に疲弊した色がありましたものですから、村の有志者が、村地主會即ち私の村には従前より地主會と云ふものがありますから、其地主會に向つて、此疲弊して居る、小農者を助けてやつたらどうであるかと云ふことを話しました、所が地主會は快く承諾して呉れまして、金千百餘圓の補給を受けまして、さうして信用購買販賣組合と云ふものを組織する事の決議をしましたのでございませぬ、さうして、さう云ふ疲弊して居る所の小農者であるから、その第一回拂込出資を、其千百圓の補給を受けた中から出してやりまして、此組合を設立致しました、さうして尙其耕作地が非常な疲瘠の姿になつて居るにも拘らず、耕作者は資金が足りませぬものですから、月五分の利で之を貸與することになりました、其時の金は此補給せられただけの金では足りませぬですから、有志が其不足額を立替組合に供給して、さうして其年は小農者に満足を與へ、次年からも組合資金で不足を告ぐる場合は常に地主會等より借入して來たが、漸次常態に復して、今日にては全く組合資金を以て事足ると云ふ工合で、日歩貳錢五厘の低利で組合が融通して居るのであります、それから貯金は當座、普通、不動と三つの種類があります、併ながら當座と普通は是は外の組合と變つて居りませぬ、けれども此不動貯金と云ふのは、是は強制して預けさせるやうにしたものですが、それは最寄組合員の五名乃至十名で貯金組を作らしめ、それに一冊の貯金通帳を渡し置き、其の貯金組の各自が交代に其組の貯金を取纏め組合に預入する方法を採り、若し出金せざるときは其組の總員で責め、共同貯金をするのであります、最初それに興味を持たせる爲に一

人の組合員に貳拾錢宛の基金をやること、し十人ものなら貳圓、五人のものなら壹圓と云ふやうにして初めにそれを通帳に記入してやりました、さうして其のやつた所の金は、少い金ですから初めに有志に計り、それだけの金を寄付して貰つて、それを組合員に附けてやつたのであるが、非常に嬉しがつて、それからすん／＼預けるやうになりました、それから又毎年總會の席上に於て、此不動貯金の成績の良好なる組には、賞與を與へて居るのであります、併し私の組合は漸く明治四拾一年に生れた組合で、まだ十分に餘裕金もありませぬから、是れも皆有志の寄付を仰いでやつて居るのであります、それから貸付金は一組合員に五百圓を最高限度として居ります、用途は肥料土地及牛馬の購入、土地の改良及副業の資金であります、購買は石灰、大豆粕、人造肥料、粕類、木炭、それから食鹽等であります、販賣は十分のことはやつて居りませぬが、今年の五月よりして玄米九百餘石を販賣して居ります、其金額は壹萬七千五百圓程であります、組合員の数は二百四十名でありまして、出資口数は八百三十七であります、それで出資金の總額は壹萬六千七百四拾圓で、準備金は千百七拾壹圓餘、特別積立金は貳百四拾貳圓餘であります、不動貯金は日歩にして一日壹錢五厘、それが六千七百圓餘であります、普通貯金は壹錢參厘で、是が九千七百七拾貳圓餘であります、當座貯金は壹錢貳厘で貸越の時には貳錢六厘として、是が壹千百貳拾圓餘であります、以上私の申述べたのは唯組合を設立した時の事情と、現在に於ける状況の大体を一寸御話を致した次第であります

## 第一二日

## 石川縣無限責任勅使信用販賣購買組合理事 柳場梅吉君

私は今御呼び上げになりました、石川縣能美郡勅使村の組合理事でございます、少しく御話致さうと思ひ

ますが、洵に徹々たる組合のごとでございますから、皆さんの御清聴を煩はすやうなことはないが、御笑草として御聴取の程を願ひます、それで私の村は、北陸線の動橋驛より僅か一里程南に當ります所の、實に寒村でございます、誠に小さい村で、三百戸以内と云ふ位の村でございます、村内には動橋川、浦見川と云ふ兩川が流貫して居ります、明治二十九年に此兩川共洪水がありました、所が実際に小さい川でありますけれども、随分堤防が破壊致しまして、其爲に田畑三十町ばかりか荒地と化し、其他の田畑も大層浸水に罹りまして收穫が非常に減りました、越つて翌三拾年にも再び水害がございまして、是又收穫が半額も上らないと云ふ位でありました、之れ等災害の爲に非常に村民一同が困憊致しまして、殆んど赤貧洗ふが如き村と化したのであります、それで村の有志は是は何とかして救済の途を講せねばならぬ、若し然らざるに於ては互か先祖から譲られた貴重な財産も、皆他に賣却して了はねばならない、と云ふやうな境遇でございました、所で一同が申合して農工銀行より、農家の最大資本たる肥料代を借入れまして、さうして明治三拾二年と三拾三年の兩年に、共同購入をやりました、所が其結果は非常に宜しうございましてに依り、越つて三拾四年三月二拾日に購買組合を設立致しました、それから私の村の大字は七つになつて居りますが、其全村を組合區域と致しまして、設立致しましたやうな次第でございます、言はば此の水害に罹つたこと云うことが動機となつて組合が出来たのでございます、それから經營の狀態に就きましては別段耳新しい事も御座りませぬか、役員は理事、監事、各三名宛を置き他は協議員とし、各區長を以て其役員に充つると云うことに致しました、最初から何れも村の爲に無報酬でやると云うことになつて居ります、物品の取扱の如きは最初人の信用が分りませぬから、組合員から其の需要物品を申出さしめまして、之れに應じて物品を引き渡しましたが、其物品の代金に對しては、各人が保証人を立てた証書を認め組合に提供して支拂延期を承認すると云ふ風で二、三年やりましたが、それでは面白くありませんので、其區の組合員は、連帯責任と云ふ事を以て内約を致しまして、それより物品の申込は其區長に迄で申出て、而

して區長から組合へそれを取纏めて申込むと云ふ事にして先づやつて來ましたが、幸に今日まで一人の滯納者もないやうな次第でございます、それよりして四拾五年、即ち昨年の拾月に於て信用、購買、販賣、と是だけの事業を、組合で兼營することに致しました次第で、其信用の部に於きましては、先づ其貯金を四種に分けてまして、普通貯金、定期貯金、据置貯金、現品貯金と云ふやうなことでございます、所が現品貯金の外は、他と同一でございますから、申しませぬが、此の現品貯金はどう云ふ譯のものであるかと云ふ御考の方もございませうが、是は災害の時に各自か引き出して使うと云ふ趣意から出たもので、農家が米を取れた時に於て、粃を一升でも二升でも災害を凌ぐ爲に積立て、置き、何時災害があつても之れが爲め差支ないやうにと云ふ準備に、それを積立てることに致したのであります、故に利子歩合も高くし年八朱として預ることに致して居ります、それから販賣はどうかと云ふと、昨年の拾月でございまして、是もまた漸く初めた所であるから十分やることは出来ませぬが、先づ手初めと致しまして、西垣講師が御話になつた通り、各字に於て各組合員の申込を取り纏め、毎月其の報告を致しまして、其販賣高を商人に示し競争入札に依つて販賣するのであります、其結果が個人の賣るより、拾五錢乃至二拾五錢と云ふ高値に賣れて居ります、是も昨年初めてやりました様な次第ではから續けて行つたら其結果を見ることが出来ませうと思ひます、それから効果に就て一寸申しますが、設立後、即ち三拾四年より昨年の年度末までに剰餘金が五千八百九拾圓餘ありましたが、其中組合員に、特別購買がございました故に、特別配當金をしたのが、三千五百圓餘之れは組合員に手渡し、たが、他は準備金及積立金として、組合が持つて居る次第でございます、實に徹々たる組合の詰らぬことを御話して、御耻しい次第でございます

富山縣飯野村一徳社信用購買販賣組合理事長 川瀬八郎君

諸君、私は飯野の一徳社の理事長でございます。今日は斯る盛會に列して、賢明なる諸君の前で御話するのは實に光榮とする所でございます。私所の一徳社は、明治四拾二年の六月二拾三日に漸く許可を得まして、設立致した組合でございます。此組合を設けた所の趣意に就て、一寸簡単に御話致しますか、私の村は日本海に面して黒部川の沿岸に沿へる、長さ一里二拾町、狭きは二拾五町の村落でございます。戸數は七百戸、人口四千に垂々とする所でございます。生業は漁業本意として、勞働を副業とするものと、農業本意として勞働を副業とするものとであります。各部落に於て人情風俗がいろ／＼異つた所の慣習もあり、従つて衝突することも間々ある様な状態であるから、之を一致する爲に、一徳社を拵へました次第で、此の一社の下に人情風俗を改良一致致したいとの希望からして設立したのでございます。而して加入募集致しました所が、着々進みまして現今は全村民の七八分を包含致しまして今や幾分の改良が出来たのでございます。それに就て當組合の昨今の状況を、一寸茲に書いて來ましたから朗讀致します。

富山縣下新川郡飯野村東狐四千四百四十九番地  
無限責任飯野村一徳社信用購買販賣組合

組合の効果

(一)産業の發達を促したること  
組合設立以前は産業資金たる否を問はず地方銀行又は個人たる金貸貸付業者より融通を受けたるの結果徒に高利を貪らるゝ状態なりしも幸に本組合を設けしより一般組合員に對し低利の資金を供給し得るの便を與へ爲めに各種の産業は年と共に發達の趨勢を示しつゝあり而して目今組合よりの放資

金額五萬四千餘圓にして其の種類は肥料及小廻船の資本、土地開墾等なり  
(二)貯金并に納税の便宜を與へたること

本組合は農村自治經營上貯金奨励に全力を注ぎ特に事務所を村役場并に小學校に接近して設けたるを以て兒童通學の途次貯金の便をなし得る様多大の便宜を與へしを以て漸次貯金額も増加し約貳萬圓に達し従て納税成績も良好となれり

(三)組合員數及貸借金(八月三十一日現在)

一、組合員數	五百三十八名		
一、出資口數	壹千五百〇七口		
一、金五萬四千四百貳拾六圓		貸付高	
一、金壹萬貳千七百六拾四圓貳拾九錢		拂込濟出資金	
一、金貳千參百五圓七拾壹錢		拂込未濟出資金	
一、金壹萬九千六百五拾參圓		貯金	
一、金壹萬九千六百拾四圓		借入金	
一、金壹千五百五拾四圓		準備金	
一、金四拾四圓		特別積立金	

而して當組合の事務所を、學校や役場に接近したる所に設けまして、總て小學兒童の通學致しまするのを幸として、貯金や何かの便をさせました爲に、著しく其効果があつたやうに思ひます。最も此の貯金や納税の便宜を與へる考を以て事務所を役場と學校に接近したる所に設けた次第で、今や各種貯金を合して約貳萬圓にも達した譯であります。組合員數及貸借状態の、八月三十一日現在は今朗讀しました通り、組合員が五百三十八名であつて其の出資口數が千五百七口でございます。そして一口の金額が拾圓であり

まして、内拂込済額が壹萬貳千七百六拾四圓貳拾九錢で、拂込未済出資金が貳千參百五圓七拾壹錢でございます。貯金は壹萬九千六百五拾參圓、借入金壹萬九千六百拾四圓、準備金は壹千五百五拾四圓、特別積立金は四拾四圓でありまして其の貸付總額が五萬四千四百貳拾六圓であります。以上斯の如き次第でございます。まして、苟くも今日では組合員たる者にして組合に近付かないと言ふ者は一人もありません。又是まで各種の銀行や金貸業者から高利の金を借りて、非常に苦痛を感じて居りました矢先きへ、斯の如き低利の金を貸して貰ふことが出来、さうして又其の手續が簡單で、しかも學校の兒童が使をすること云ふ有様でありますから、一村の者が擧つて一徳社の下に集つて、感情も融和した上、風俗人情に於ても改りました事は著しいことである。私は推察するのであります。以上甚だ簡單でありますか。我が組合の實況の一端を、諸君に御紹介致しました次第で甚だ失禮を致しました。終りに臨みまして、諸君の健康を祈ります。

### 表彰式

大會に引續き富山縣支會は縣下優良組合の表彰式を擧ぐ、先づ支會長は式辞を朗讀し、更に左記十一組合に對し表彰狀并に賞品(木杯三つ組)を授與す

#### 式 辭

一府八縣聯合産業組合大會を機とし會頭閣下始め來賓各位の御臨席を得て茲に縣下優良組合の表彰式を擧行するは誠に欣幸とする所なり  
 惟ふに世運の進歩に伴ひ産業組合の圓滿なる發達を望むこと切なり而して本縣斯業現況を觀察するに未だ豫期の効果を修むる能はずと雖もに成績良好の故を以て中央會并に本縣より選奨せられ又は當支會の選奨したるもの、外今回更に設立後四ヶ年以上の經歷を有し事業日に進み事務整頓し組合員相互に道徳の向上産業の改良に努め成績優良にして他の模範とするに足ると認むる組合十一を選ひ本日を卜して之が表彰を行ふを得るは實に欣喜とする所なり  
 望らくは今回表彰の選に入りたる組合は將來一層内容の改善に盡し以て國運の隆昌を計られんことを一言以て式辭とす

大正二年九月十六日

産業組合中央會富山縣支會長 濱田 恒之助

#### ▲表彰組合

有限責任達町信用購買販賣生産組合 事務所 上新川郡大廣田村大字達町村

無限責任釜ヶ淵信用購買販賣組合	事務所	中新川郡釜ヶ淵村大字道源寺村
有限責任滑川賣藥信用組合	全	中新川郡滑川町
有限責任青木信用組合	全	下新川郡青木村大字青木村
無限責任飯野村一徳社信用購買販賣組合	全	下新川郡飯野村大字東狐村
有限責任宮川村信用購買販賣組合	全	婦負郡宮川村大字廣田村
有限責任横田信用購買販賣組合	全	射水郡横田村大字横田村
無限責任苗加信用購買販賣組合	全	東礪波郡東野尻村大字苗加村
無限責任山田村信用購買販賣生産組合	全	東礪波郡山田村大字大塚新村
有限責任市野瀬信用購買販賣生産組合	全	西礪波郡戸出町大字市野瀬村
無限責任松澤南部信用購買販賣組合	全	西礪波郡松澤村大字下次郎島村

▲彰 状

各 通

組 合 名

組合員能く一致共同組合事業に勉め其成績良好にして他の模範たり依て木杯一組を授與し茲に之を表彰す

大正二年九月十六日

産業組合中央會富山縣支會長正五位勳四等 濱 田 恒 之 助

右終つて押川中央會參事は會頭を代理し三松農商務書記官は農務局長代理として各一場の訓辭演説ありたり

中 央 會 頭 訓 辭

富山支會の優良なる組合の表彰式に臨むことを得たるは、洵に光榮とする所でありませす、今回一府八縣の産業組合の諸君が御集りになりまして、殊に本縣組合關係の多數諸君の集つて居られる、此大會の際に當り富山支會が斯の如き盛式を擧ぐるのには洵に歡喜に堪へないのであります、私か申すまでもない、産業組合の事業は最も着實に實行すべきもので、今日表彰の選に當られたる各組合の成績に於て此の点に於て特に著しいものがあらうと信します、動もすれば浮薄輕跳、唯徒に口舌を弄するの時に當つて、我産業組合が斯の如き成績を擧ぐると云ふことは、國家の爲に洵に喜びに堪へぬのであります、今日は諸種の團體が動もすれば、唯形式に流れ易いのであります、彼等の言は洵に立派な事が多々ありますけれども、果して之を實行して居るか、實行して而して其効果は如何であるか、斯う云ふことを詳に研究し、眞に調査して見ると、書き列べた言述べた通りに實行せられて居らない、假りに實行せられて居つても、形式であつて其効果が擧つて居らないと云ふ事が往々にしてあるのであります、斯の如きことは何事に就ても、甚だ遺憾に思ふのであります、若し産業組合に於て、産業組合の性質上少くとも斯の如きことがあるならば、御互に努めて矯正しなければならぬこと、信するのであります、御承知の通り産業組合は其の數に於て、壹万以上に達し組合員は壹百万人に達して居ると思ひます、果して此の壹万有餘の産業組合が、豫期の通り又りと云ふことは出来ない、動もすれば今日に於て矢張産業組合は、唯形式に出來て居るのであると云ふ、非難を受くることもありませす、是等のことは御互にどうしても努めて、之を改めねばならぬと信するのであります、昨日來、皆さんの御述になる通り、我帝國の産業状態上、産業組合の必要は、洵に著いのであります、申すまでもございませぬが、今日帝國經濟の状況は如何であるか、財政の状況は如何であるか

今日政治家の最も苦心して居ることは、財政の基礎を固くすること、我財政の基礎を固めること、此の目的が十分達せられぬ間は、帝國の政治は常に紛擾を免れぬのであります、此の財政の基礎を鞏固にすることに於ては、種々のことがありませうが、殊に經濟界の状況を進めて行くこと云ふことが、最も必要と考へるのであります、産業組合は、殊に小規模の農商工業者に必要であると、説かるゝのであります、我帝國の産業中小規模ならざるものに、何がありませうか、悉く小規模の産業である、之を進んだ所の國の産業に比すれば、帝國の産業は洵に小規模であります、此小規模の産業を以て列國の産業と競争さして、而して之に勝つて行くことは餘程難しい、今日の貿易の趨勢に考へて見ると、即ち輸出入の不均衡を來して居る有様は、諸君が御承知の通り、輸入が壹億圓つゝ餘計ある、此壹億圓は正貨にて必ず日本より餘計出つゝあるのであります、而して之に應ずるところの正貨準備は、帝國に無いのでありまして帝國の財政は借金をして、正貨準備をすること云ふのが今日の狀態である、之れを年々歳々續いて行つたならば、終に帝國の貨幣制度の基礎を危くすることは、申すまでもないことでありませう、是等のことを矯正するに就ては、種々の方便がありませうが、主として我帝國の産業の發達を計ることが、最も與つて力あるものであらうと思ひます、又今日の貿易の不均等を來して居ることに就ては、種々の原因はあるのでありませう、如何なることを考へて見ても、日本は不利の地位に居る、御承知の通り我貿易を爲して居るところの列國は、遠く離れて居り、常に日本は世界の中に於て甚だ不都合の地位にある所以は、風俗習慣も悉く違つて居り、言語は能く通じないしするから、斯の如き狀態である、帝國が外國と能く競争して行かうと云ふのには、餘程努めなければならぬ、餘程奮發しなければならぬ、然るに帝國の産業は洵に小規模にして、殊に取引の上には、多數の品を能く揃へて、而して取引の圓滑を計ること云ふことは、甚だ困難であるのであります、能く品物を一定して、多數の量を團體の力に依て輸出する方法を講ずることが必要である、然るに動もすると小規模の産業者は生産の上に於ても、其他万般の上に於て、對外競争をしても、而かもそれが正し

い競争ではない、甚だ不都合なる競争を爲して、自から敗を取ると云ふ状態であります、是れ等のことを能く正して行きますに就ては、どうしても共同一致の力を借るより外はないのであります、それに就ては産業組合の効力は最も大なるものであらうと考へます、又我金利の上に於て、即ち資金の點に於て、日本程高利の資金を使つて居る所はないのであります、産業組合に關する、統計表を御覽になつても分つて居りますが、總て一割二分ださうであります、一割二分の金利は世界の金利に比して見れば洵に高いのであります、斯くの如く高い資金を以て、列國と競争しやうと云ふことは思ひも依らぬことであります、況んや其他一般の金利は是れ以上であるのであります、故に此資金の上から申しましても、産業組合は今後益々發達を促し、一層の改良を加へねばならぬと思ふのであります、前申上る通り帝國の産業の有様から申しましても、亦金利の上から申しましたも、亦各種の組合即ち信用組合、生産組合、販賣組合何れを申しましたも、是が發達を計らなければならぬと云ふ状態であります、私は特に此所に諸君の御考慮を申しまひたいと思ひますのは、御承知の通り壹万有餘の中に組合の種類は、どう云ふ組合が多いかと云ふと、信用組合が最も多く、生産組合、販賣組合は比較的少ないのであります、併しながら帝國の今日の状況から申しますと、生産販賣の事業にも少し奮發をしなければならぬのであります、信用組合も必要なことであるところでない、是は殆ど總てのものゝ基礎でありますから、之れを基礎として生産販賣の事業に向つても尙歩を進めて發達を加へねばならぬと信ずるのであります、此點に於て殊に諸君の御配慮を請ひたいと思ふのであります、組合と云ふものは申すまでもなく、組合員が自らの事業として、其組合の發達を計らなければならぬ、唯組合の理事者たる人の事業と云ふのではないのであります、此事は組合員たる人も亦理事者たる人も、餘程能く注意して御互に組合員の經營する事業に就て、進歩發達を計るやうに努めたいと思ふのであります、又組合の事業の成績のみでなく、各自の産業各自の事業に就ても、組合の當事者たる人は、最も能く注意して互にそれに努められ、一層の發達を計るやうに致したいと思ふのであります

組合員各自の事業が進めば組合の事業は、自から進むと云ふことは是は言ふまでもないことであります。うぞ此事に就ては唯今日の貯蓄がいくらで、資金の運用がどうか云ふことに止らずして、各組合員の向上發展を計ることに就て、御盡力を請ひたいと思ひます。尙組合の成功を計ることも必要であります。組合に従事して居る理事者諸君は、徒に事業が早く擧らんことを急ぐ爲めに、形式に流れないやうに誠實に組合の成績が現はれる様に御盡力を希望します。今日表彰された各組合の諸君も、今後益々之れを努め又今日の選に當られざる各組合は、今日榮譽を受けられた組合に計つて、此事業の成績を益々擧げられるやうに希望するのであります。今此表彰式を行はるゝに當つて、諸君に見へ、且つ聊か自分の所見を述ぶることを得ましたのを光榮に存じます。

### 農務局長訓示

私は本日一府八縣聯合産業組合大會を機とし、茲に開催せられた富山縣支會優良産業組合の表彰式に列することを得まして、一言祝辞を述べ且つ思ふ所を申し上げることの出来まするのは誠に光榮とする所であり、唯今中央會頭閣下より詳細なる御訓示がございましたので、私から更に是れ以上に亘りまして諸君に申上ぐることは無のであります。聊か自分等の考へて居る事柄に付て、會頭閣下の御趣旨を敷衍すること云ふ意味に於きまして、少しく申上げたいと思ふのであります。扱て問題に入ります前に現今日本の産業組合の状態に就て簡単に申上げたいと思ひます。そこで極めて最近の調査に依つたものに付て組合の大勢を申し上げます。本年の六月現在に於て産業組合の数は一万二百と云ふ數になつて居ります。之れを昨年末に比較しますると六百ほどの増加に過ぎませぬけれども、從來の經驗に依て見ますと、本年も亦一千以上の増加を來すことであらうと思ひます。此の組合數を全國町村數に比較しますると、約八割三分に當るのであります。固より總ての種類の組合が全國に行き涉ると云ふことは出来ぬだらうけれども

信用組合だけは日本全國の各町村に亘つて各村に於ける金融機關となることを望むのであります。そこ斯の如く組合數に於て發達して居るにも拘らず、組織の區別に依つて發達の状況を見ますと無限責任の組合の増加は極めて遅々たるものであつて、有限責任の組合の増加が非常に著しい之は聊か遺憾に思ふのであります。中央會頭平田子爵閣下は「無限責任は産業組合の根本である」と申されましたが、我々當局に於ても同様の考で居りますので、無限責任組織の産業組合を以て我が國の農村に最も適當なるものとして居ります。然るに其種組合の發達の状況を見ると、唯今申したやうに不幸にして無限責任の發達が微々たる有様であります。是れ無限責任の組合に付ては登記の手續か面倒である、組合員の加入に付ても面倒な手續が要る、是れ等の面倒をさける爲め有限責任組合を好む様になつて來たのであらうと思ひますが、果して之が手續等の關係から來た現象であつて事實に於ては無限責任なるものは産業組合の眞隨であつて亦精研であると云ふことが御分りになつて居るものとすれば結構であります。さうでないと思ひますれば憂ふべきこと考ひます。果して手續上の面倒でありしすれば我々局に當つて居る者は出來得るだけ、法律の改正其他の方法に依つて此の面倒を少なくすることに努める考であります。次に全國の産業組合の組合員數は百八万六千人でありまして、さうして一組合の平均員數百六人と記憶して居ります。又其一組合當りの出資口數は二百二十八で、丁度一組合員が凡そ二口宛を出資して居ることになつて居ります。又組合員の職業別に付て調べて見ますと、農業者が最も多數を占めて居りまして全組合員の八割三分に當り、商業者は漸く六分、工業者が四分、漁業者が二分、其他の者が五分と云ふ割合になつて居ります。それから組合の運轉資金を調べて見ると最近に於て、約九千五百萬圓以上に達して居ります。今之れを一組合に割り當て、見ると、普通の組合に於ては四千九百圓であります。然るに信用組合又は信用兼營組合の運轉資金はどうか云ふと、壹萬參百圓と云ふ金であります。之を見ましても普通の組合よりは信用組合と云ふものは運轉資金を餘計に持つて居ると云ふことが分るのであり



ます、是は昨年此所に居られる西垣學士當りか外國の組合を視察して來て、信用組合に付ては貯金が必要であると云ふことを唱導せられ、當局も亦同感で奨励せねはならぬと信じて居るのであります、今日其貯金が如何程位有るか云ふと、産業組合に於て貯蓄されたる金高は貳千萬圓以上になつて居ります、果して各組合が此數字に現はれて居るやうに、産業組合の趣旨を十分呑込んで働いて居ると云ふことでありますれば誠に慶ばしいけれども、只今中央會頭から御訓示のあつた如く或る点に於て缺けて居る所が有りはせぬかと疑ふのであります、即ち組合の中にはまた眞に産業組合の趣旨を理解して居ないものがある様に思はれるのが甚だ遺憾に存します、獨逸の最近に於ける組合数は三万三千餘と云ふことになつて居ります、固より獨逸は世界一と云ふ國でありますから、之と比較することは出来ぬけれども、まだ日本は幼稚であると云ふことが云へるのであります、それから中央會頭閣下の御話になつたことを少しく敷衍して申上げたと思ひます、一体産業組合を經營するに付きましては信用が第一であります、若し信用を失ふと云ふやうなことでありますならば、到底好結果を收めることが出来ぬのであります、産業組合の数の殖むる割合に組合の實蹟が伴はないと云ふのは、畢竟するに信用と云ふことに餘り注意を拂はぬのではなからうかと考へられるので、是は甚だ嘆すべきことと思ふのであります、曾てごなたでありましたか、獨逸の産業組合を見て、其借入れの手續が極めて簡易であると云ふことを申述べられたが、何故に簡単に借入れが出来るか云ふと、平素御互に信用の調査が出来て居つて、某は斯う云ふ性質でどう云ふ行爲をして居る、又如何程稼いで如何程収入あるかと云ふことを調べて居りますから借りに參つても敢て調査の爲めに日を延ばして置いたりすることはないと云ふ風に組合員各自が信用があるのであります、今日御出席になつて居られる諸君は組合を經營なされて居らるゝのでありますから、此点に付ては平素御注意になることを希望致して置きます、若し信用が基礎になつて居りますと無理に産業組合と云ふ形式を経ぬでも宜からうと考へるのであります、同じ米を販賣するには販賣組合を拵へる必要

はないと思ひます、信用さゝ出来て居れば本縣の何郡でありましたか、堀二作さんの經營して居られる共同倉庫の如きは産業組合にも何にも由つて居らぬ、それでも旨く行はれて居ります、之を思ふても信用が第一だらうと思ひます、之を要するに産業組合は形式だけでは困る、産業組合と云ふ形は欲くない、産業組合と云ふ實體を備へて居る産業組合が欲しいのであります、それから唯今申しました通り産業組合は信用を基礎としてやるべきものであると云ふことは當然のことであるから、主として信用組合に就て云ふのであります、區域は大きくすることは宜しくないと思ひます、何か特別の理由があれば格別でありますけれども、さもなければ其必要はない、然るに最近の傾向を見ますに大きいものが割合に出来て來ると云ふ傾きがあります、併し是は強ち悪い傾向とばかりは言はれませぬ、何と云ふものが割合に出来て來付て勢ひ他の組合の事業を兼ねて居る爲めに、又資金の運用上其仕事を滑かにやつて行く爲めに、區域を大きくしなければならぬ必要がある場合があるのであります、無論是は例外でありまして、自己の經營を旨くやつて産業組合の利益を多からしめるものであるから決して悪いとは思はせぬ、唯た譯もなく區域を大きくして人さい多くしたならばやつて行けるだらうと云ふ考が宜しくないのであります、要するに御互に信用の出来得る範圍に於てやつて貰ひたいと云ふのが私の趣意であります、若し資金を餘計流通する上に於て大きな組合が必要であるとするならば、此區域を大きくすると云ふことは大なる間違であります、さう云ふことであつたら聯合會を組織すれば宜い、何も苦んで自分等の手の届かぬ所まで區域を擴める必要はない、金融の便宜を圖ると云ふことであつたら聯合會を利用するやうにすれば宜いのであります、それから是は經濟上當然の現象と思ひますが、産業組合が仕事をする時には、最初は僅かの人で、篤志家杯が自分の仕事の片手間でも出来るけれども、組合の運轉する資金が壹萬圓以上にもなりまして共同で之をどうすると云ふ場合には、多少専門的になつて商的手腕を要するやうなことになるから専門の人を使ふと云ふことが必要と思ひます、小さい範圍に於ては其必要もありません、さう

でない時には旨く行かぬと思ひます、それから日本に於ては生産組合若くは販賣組合の必要を感じて居るにも拘らず、發達しないと思ふことであります、是は私も同感であります、生産組合は數に於て三百位のはありませう、併ながら仕事をして居るものは數へる程しかない、なせ斯う云ふ有様であるかと云ふと、生産組合と云ふもの、性質を能く知らぬからうと思ひます、併し之を誤解して法律違反と云ふやうなことをやつては困ります、生産組合は組合員自身が生産した物に加工する場合とか、若くは組合員が物を使用する場合に限るのでありますから、此点に付ては御注意をして戴きたい、それから機械を使用することに就て、申述べたいと思ひます、織物機械、製紙機械等事業上に種々の機械を用ゐて行くと言ふことに付て、考へて戴きたいと思ひます、近頃長野縣でやつたのであります、電氣の生産組合即ち電氣力の使用と言ふ組合は法律上どう云ふものであるかと云ふことは、逓信省の御方の御意見を伺はなければ斷言することは出来ませぬけれども、小工業に電氣を使用すると云ふことに付て考慮を費して居ると云ふことであるから、是等に付ても能く考へれば組合の力では有益なる事業が行はれること、思ひます、尙ほ申上げたことがありませぬけれども餘り長くなるので御迷惑のこと、考へますから止めますが、終りに臨んで表彰を受けられたる諸君を祝するに同時に、先程中央會頭から御訓示のあつた通り何卒御奮勵あつて益々發達せられんことを希望して止まぬ次第であります

次で富山縣知事は大要左の意味の訓辭をなし、更に富山縣會議長、郡市長總代の祝辭に次ぎ、射水郡横田信用購買販賣組合理事堀二平は表彰組合を代表して答辭を述べたり

### 知事訓辭

産業組合中央會富山縣支會は本日とし茲に優良組合表彰式を舉行するは本官の深く欣喜する所なり、惟ふに歐米に於ける産業組合の起原は極めて近世の紀に屬し未だ一世紀を超えずと雖其の數に於て其の成

績に於て著しく進歩の發達をなし今や殆んど産業の中堅をなすの状態にあるは實に羨望に堪へざる所なり、此の如く長足の進歩を現し尙ほ隆々として停止する所を知らざるの觀ある所以のものは蓋し協力一致相倚り相信じ堅忍持久至誠以て事業に奮勵するの結果に外ならず

翻つて我國産業組合の現状を見るに制度實施以來茲に十餘年歳月固より永からざるも數に於て既に一萬を超へ其の成績概して優良なるものあるは悦ふべき現象なりと雖仔細に之か内容を查察するに多くは其の基礎甚だ脆弱にして運用の妙を缺き殊に其の種類に就きて考ふるに信用組合は成績良好なるを認むるも其の他の購買、販賣、生産組合等に至つて前者に比し著しく遜色あるは最も遺憾とする所なり要するに我國産業組合の状態は近時稍や見る可きものありと雖未だ固より幼稚の域を脱せずして前途頗る遠遠なりと謂つへし、されば當業者たるものは一致團結益々自強以て斯業啓發に盡す所なかるへからず、本日茲に縣下二百有餘の組合中優良十一組合の表彰を見たるは斯業の爲め洵に喜ぶ可きことにして畢竟當事者の指揮監督宜しきを得、組合員和衷至誠克く其の事業に努めたる結果たらずんばあらず、希くは其の旌表せられたるものは一層浮勵長へに其の榮譽を失墜することなく、未だ表彰せられざるものは奮勵努力他日の成功を期せんことを

表彰式に蒞み聊か所懐を述へて訓辭となす

### 祝辭

産業組合中央會富山縣支會は本日とし表彰式を舉行せらるゝに方り臨席するを得たるは欣幸とする所なり、願ふに競争激烈なる社會に立ち小資本を集め巧に其の事業を運用し大資本家と拮抗して宇内に輸贏を制せんとするは極めて至難の事業に屬す然るに諸氏は堅忍持久萬難を排し協同自助其の經營に努め克く産業及

經濟の發達を計り一郷和衷の實を擧げ此に表彰の榮を荷ひり豈に慶賀せざるへけんや然りと雖社會經濟の狀態は益複雑を加へ産業の發達は駸々として息むことなし此の間に處し範を四隣に垂れ益々事業の發達を計るは更に困難なるものあるへし  
冀くは本日の旌彰に安んぜず尙ほ一層團結を鞏固にし不屈不撓以て國家の隆昌を期せんことを一言を呈して祝辭とす

大正二年九月十六日

富山縣會議長 吉田久兵衛

### 祝 辭

一府八縣聯合産業組合大會開催を機とし富山縣支會は本日茲に縣下優良組合の表彰式を舉行せらるゝに當り本官等亦其席末に列するを得たるは深く欣幸とする所なり  
惟ふに組合法令實施以來星霜を経ること既に十有四年其間本縣に於て組織せられたる産業組合數今や二百以上に達したるは實に喜ぶべき現象なりと雖其の成績優良なる故を以て選奨せられしものは僅々數組合に過ぎざりしに今回更に事業の經營宜しきを得事務亦整頓して範を他に及ぼすに足るものとし選奨せられたるものあるは斯業の爲め實に慶賀に堪へざるなり  
望むらくは本日表彰の榮を荷ひし組合は前途一層の奮勵努力以て今日の名譽を永久に持續し進んては後進組合の啓發誘導に勗められんことを一言以て祝辭とす

大正二年九月十六日

郡市長總代 上新川郡長正六位勳四等 松山 願武

### 答 辭

一府八縣聯合産業組合大會を機とし茲に本縣支會の表彰式を舉行せらるゝに方り貴紳各位の御臨場を辱ふし加ふるに懇篤なる告辭を賜は不肖等の光榮何物か之に加へん  
抑も時代の要求は産業組合の普及發達を切望して止まず余等先進模範組合に倣へ唯々數年一致協力に依り大なる蹉跌なく其の事業を經營し來りたるに過ぎずして成績上何等見るべきものなく今後尙ほ幾多の歲月に涉り碎心勉めざるへからざるものあり然るに今回表彰の光榮に浴し誠に慚愧に堪へざるなり不肖等一層奮勵努力事業の發展に勉め本日の旌彰に背かざらんことを期す聊か無詞を陳して答辭とす

大正二年九月十六日

表彰産業組合總代有限責任横田信用購買販賣組合

組合長 理事 堀 二 平

### 一、閉 會

大會に於て施行すべき講演、協議、支會表彰式等全部結了せるを以て副會長飯尾藤次郎氏壇上に立ち大要左の如き挨拶をなし無事閉會を告げたり  
今回の聯合大會に於て聯合各府縣は勿論、本縣各組合より多數參會下さりまして實に盛況を呈しましたのは吾々主催者の満足此の上なき次第であります、又殊に農務局長閣下及び中央會々頭閣下始め諸大家は御多忙中にも係らず御臨場下さいまして、懇篤なる後示教を仰き、又協議會として附議せられたる諸問題に付ても熱心に攻究指導せられたることは、今回來會組合の事業上に向つて發展を來たすこと、信じ茲に謹んで謝意を表します、尙終りに臨みまして閣下並に諸君の健康を祈る次第であります、(拍手)

大會の經費總額は金千三百五十圓にして其の内縣下組合より寄附せられたるは左の如し

一、經費

上新川郡

一金拾圓也	有限責任	堀川信用購買組合
一金五圓也	有限責任	山室信用購買組合
一金五圓也	有限責任	運町信用購買販賣生産組合
一金五圓也	有限責任	豊田村信用購買販賣組合
一金五圓也	有限責任	大村信用購買販賣生産組合
一金參圓也	有限責任	大澤野信用購買組合
一金參圓也	有限責任	濱黒崎信用購買販賣組合
一金參圓也	無限責任	廣田信用購買組合
一金參圓也	無限責任	福澤信用購買販賣組合
一金參圓也	有限責任	田畑村信用購買販賣生産組合
一金參圓也	無限責任	蛭川信用購買販賣組合
一金參圓也	有限責任	新保村信用購買販賣組合
一金拾圓也	有限責任	大庄信用購買販賣組合
一金拾圓也	無限責任	釜ヶ淵信用購買販賣組合

中新川郡

一金拾圓也	有限責任	水橋賣藥信用組合
一金拾圓也	有限責任	滑川賣藥信用組合
一金拾圓也	有限責任	東水橋賣藥信用組合
一金五圓也	無限責任	西加積信用購買販賣組合
一金五圓也	無限責任	上條村信用購買販賣組合
一金五圓也	無限責任	大森村信用購買販賣組合
一金參圓也	有限責任	宮川信用購買組合
一金參圓也	無限責任	同心販賣購買組合
一金參圓也	無限責任	魚躬信用購買組合
一金參圓也	無限責任	南加積村信用購買販賣組合
一金參圓也	無限責任	上段信用購買販賣組合
一金參圓也	有限責任	相ノ木信用購買販賣組合
一金參圓也	無限責任	下條信用購買販賣組合
一金參圓也	無限責任	音杉信用購買組合
一金參圓也	有限責任	中加積信用購買組合
一金參圓也	無限責任	山加積村五位尾信用購買販賣組合
一金拾圓也	有限責任	東加積信用購買販賣組合
一金拾圓也	無限責任	上原信用組合

下新川郡



一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金五圓也 一金五圓也 一金拾圓也 一金拾圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也

氷見郡

無限責任 湖光信用組合  
 無限責任 西田信用組合  
 無限責任 數田村信用組合  
 無限責任 谷屋信用購買販賣組合  
 無限責任 熊無信用購買販賣組合  
 無限責任 布施報德信用組合  
 無限責任 早借報德信用購買組合  
 無限責任 泉報德信用購買組合  
 無限責任 射礪白土販賣組合  
 有限責任 木津信用購買販賣生產組合  
 無限責任 二上村信用購買販賣組合  
 無限責任 本田村信用購買販賣組合  
 無限責任 能町村信用購買販賣組合  
 有限責任 射水郡小杉信用組合  
 無限責任 高塲信用購買販賣組合  
 有限責任 小泉信用購買販賣組合  
 有限責任 大江信用購買販賣組合  
 無限責任 下黒田信用購買組合  
 無限責任 串田信用購買販賣組合

一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金拾圓也 一金拾圓也 一金拾圓也 一金五圓也 一金五圓也 一金五圓也 一金五圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也 一金參圓也

射水郡

無限責任 仁步村信用購買販賣組合  
 有限責任 東吳羽村信用購買販賣組合  
 有限責任 朝日村信用購買販賣組合  
 有限責任 鵜坂村信用購買販賣組合  
 有限責任 橫田信用購買販賣組合  
 有限責任 片口信用購買販賣組合  
 有限責任 久々江信用購買販賣組合  
 有限責任 老田信用購買組合  
 有限責任 七美信用購買組合  
 有限責任 黑河信用購買販賣組合  
 無限責任 伏木石灰購買販賣組合  
 有限責任 新湊信用購買販賣生產組合  
 有限責任 石瀬村信用購買組合  
 有限責任 金屋村信用購買組合  
 有限責任 興野信用購買組合  
 有限責任 蓮花信用購買組合  
 有限責任 新湊信用購買組合  
 有限責任 野村信用購買組合  
 有限責任 佐野信用購買販賣組合







一金參拾圓也  
一金拾圓也  
一金拾圓也  
一金參圓也  
一金參圓也  
一金參圓也

富 山  
高 岡 市

有限責任 富山賣藥信用組合  
有限責任 神通川漁業信用販賣組合  
無限責任 富山牛乳販賣組合  
有限責任 富山足袋業購買組合  
有限責任 富山洋服業購買組合  
有限責任 高岡米糠信用販賣組合  
有限責任 高岡漆器購買販賣組合

大正三年四月二十日印刷  
大正三年四月二十五日發行

### 發行所

富 山 縣 廳 內

### 產業組合中央會富山縣支會

(振替貯金口座大阪二二五二番)

富山縣富山市西田地方町八百五拾九番地

兼發行編輯人

高 島 長 次 郎

富山縣富山市二番町五番地

會社 高 島 商 會

代表者員 清水宗三郎

富山縣富山市二番町五番地

會社 高 島 商 會

印刷者  
印刷所



終

